

参 考 资 料





若年層の定住に関するアンケート調査【結果】

1 調査の概要

- 1) 目的：本市への定住意向に関する調査を行い、人口の将来展望及び若年層の流出抑制のための施策の検討に活用する。
- 2) 対象者：高萩市内の15歳～18歳の方（881人）
- 3) 抽出方法：住民基本台帳から対象者全員を抽出
- 4) 調査方法：郵送による配布、回収
- 5) 調査時期：平成27年8月
- 6) 回収率：約26% (233/881)
- 7) 集計結果の表記方法
 - ①：nは、質問に対する無回答を除く集計対象総数で割合算出の基準とする。
※ただし属性情報（問5・6・7を除く）については、無回答も集計対象総数に含む。
 - ②：一人の回答者が2つ以上の回答をすることができる設問は、各選択肢の割合の合計は100.0%を超えている。（回答件数÷有効回答者数）
 - ③：集計割合算出の際に、実際には総割合が100%であるが、端数を四捨五入した結果、個別割合の積上げが100%にならない場合については、割合の比重が高いところで調整している。

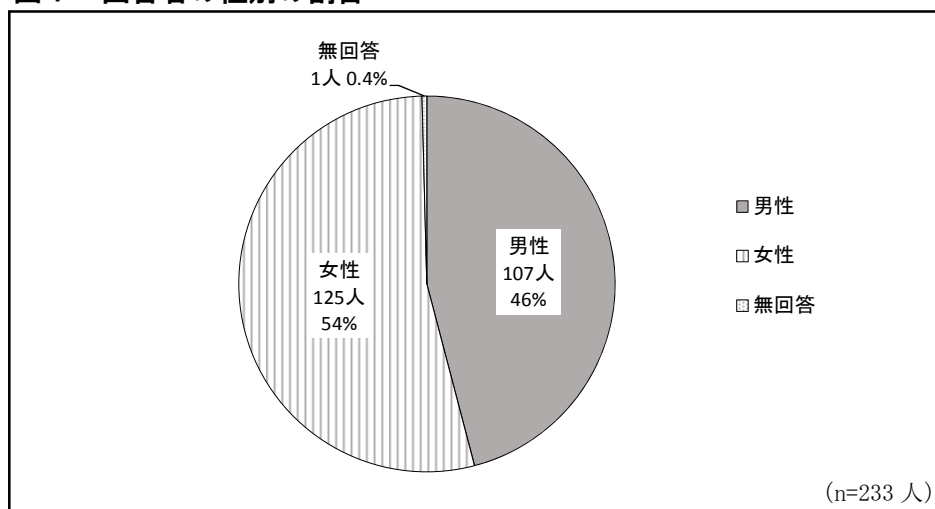
2 調査結果

(1) 属性情報について

問1. 性別をお答えください。

・回答者の性別の割合は、男性が約46%、女性が約54%と女性が過半数を占めている。

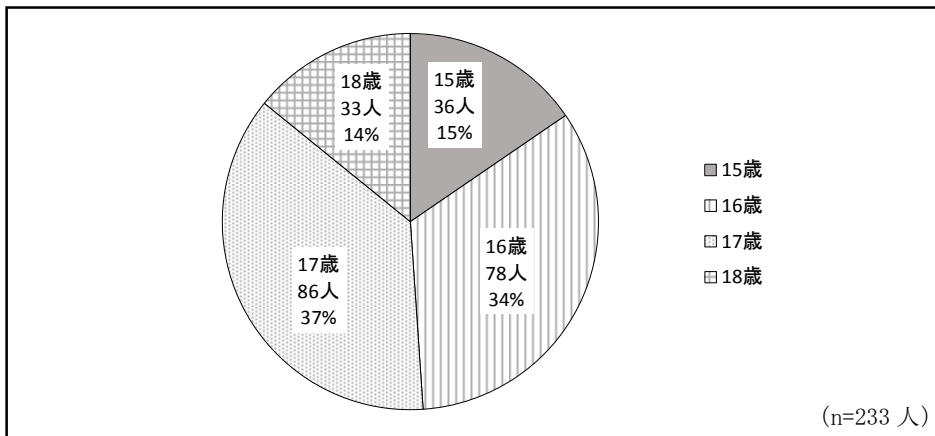
図1 回答者の性別の割合



問2. 年齢をお答えください。

- ・回答者の年齢の割合は17歳が約37%と最も高く、次いで16歳が約34%となっている。
- ・年齢が15歳及び18歳については、ほぼ同じ割合で約15%程度となっている。

図2 回答者の年齢の割合



問3. お住まいの地域をお答えください。

- ・地域ごとの回答割合は、高萩地区が約69%、松岡地区が約30%、高岡地区が約1%となっており大部分が高萩地区の居住者からの回答となっている。
(現在の3地区の人口構成割合とほぼ同じとなっている。)

図3 市内地区区分図



表1 市内地区区分別回答者

地区区分	回答者 (人)	構成比 (%)
高萩地区	160	68.7
松岡地区	70	30.0
高岡地区	3	1.3
合計	233	100.0



問4. ご職業などをお答えください。

・回答者の約99%が学生となっている。

表2 回答者の職業など

職業など	回答者 (人)	構成比 (%)
学 生	231	99.1
無 職	2	0.9

問5. あなたの学校の所在地と学年をお答えください。

・学生の回答者の状況について、学校の所在地の割合は日立市内の学校に在籍している回答者が約60%と最も高く、次いで高萩市内の学校に在籍している回答者が約25%となっている。
 ・学年の割合は「第2学年」が約35%と最も多いが、他の学年も30%を超えており、学年としては平均的に回答をいただいている。

図4 回答者（学生）の学校の所在地

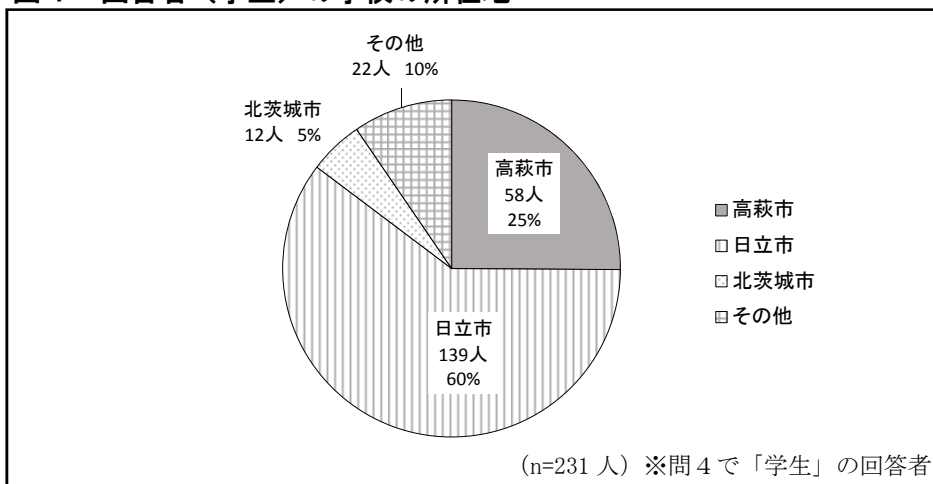
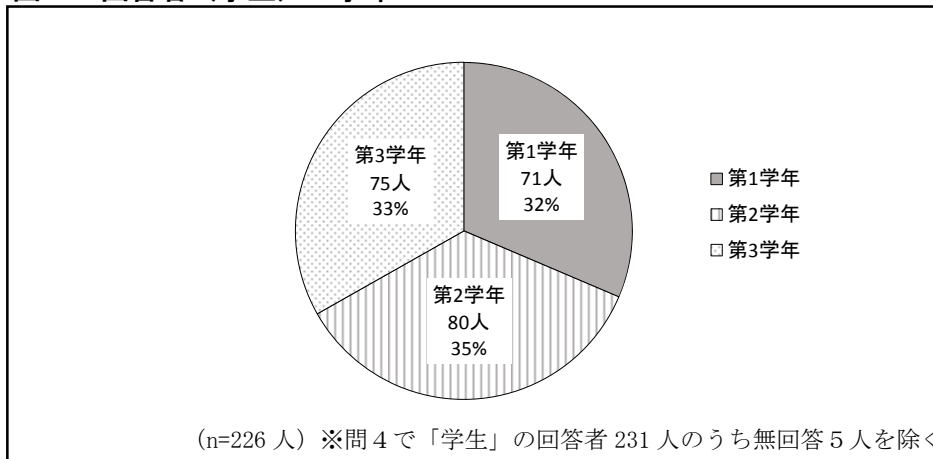


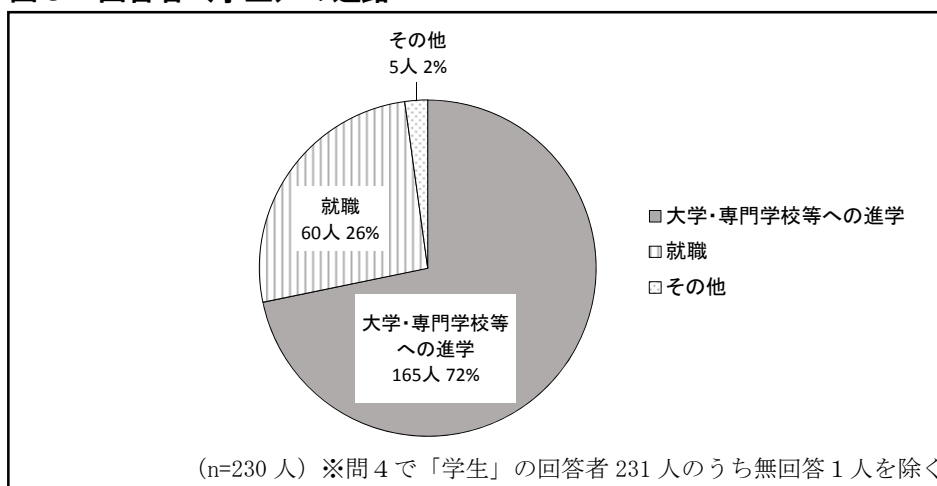
図5 回答者（学生）の学年



問6. 現在通学している高校を卒業した後にどのような進路を希望していますか。

- ・進路先の回答の割合については「大学・専門学校等への進学」が約72%と最も高く、就職を希望している学生は約26%となっている。

図6 回答者（学生）の進路



問7. 問6で回答した進路先はどの地域を希望していますか。

- ・進路先の回答の割合は「東京都」が約24%と最も高く、次いで水戸市が約19%となっている。高萩市と回答された割合は約9%となっている。
- ・進路先の地域別に見た場合、「県外・海外」が約50%と最も高く、次いで「県内」が約27%、「県北臨海三市」に約23%となっている。

表3 回答者（学生）の進路先の地域

	進路希望先	回答者(人)	構成比(%)
県内 (県北臨海三市)	高萩市	20	9.0%
	日上市	26	11.7%
	北茨城市	5	2.3%
	小計	51	23.0%
県内 (上記以外の市町村)	水戸市	41	18.5%
	その他の茨城県内の市町村	19	8.6%
	小計	60	27.0%
県外・海外	いわき市	5	2.3%
	福島県(いわき市以外)	3	1.4%
	東京都	53	23.9%
	栃木県	5	2.3%
	千葉県	14	6.3%
	その他の道府県	29	13.1%
	海外	2	0.9%
	小計	111	50.0%
総計	222	100%	

(n=222人) ※問4で「学生」の回答者231人から無回答9人を除く

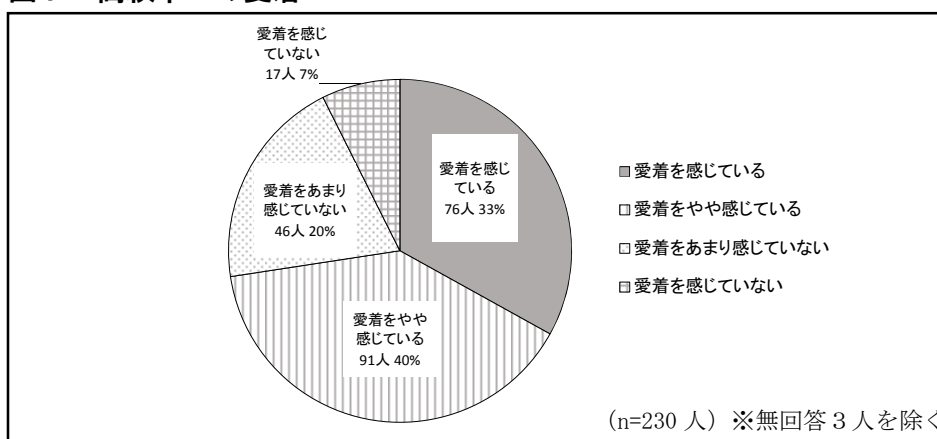


(2) 高萩市の事について

問8. あなたは高萩市に「自分のまち」として愛着を感じていますか。

・愛着に関する回答の割合について、「愛着を感じている」が約33%、「愛着をやや感じている」が約40%で合わせると約73%となり、高萩市に愛着を感じている方が多いことがうかがえる。

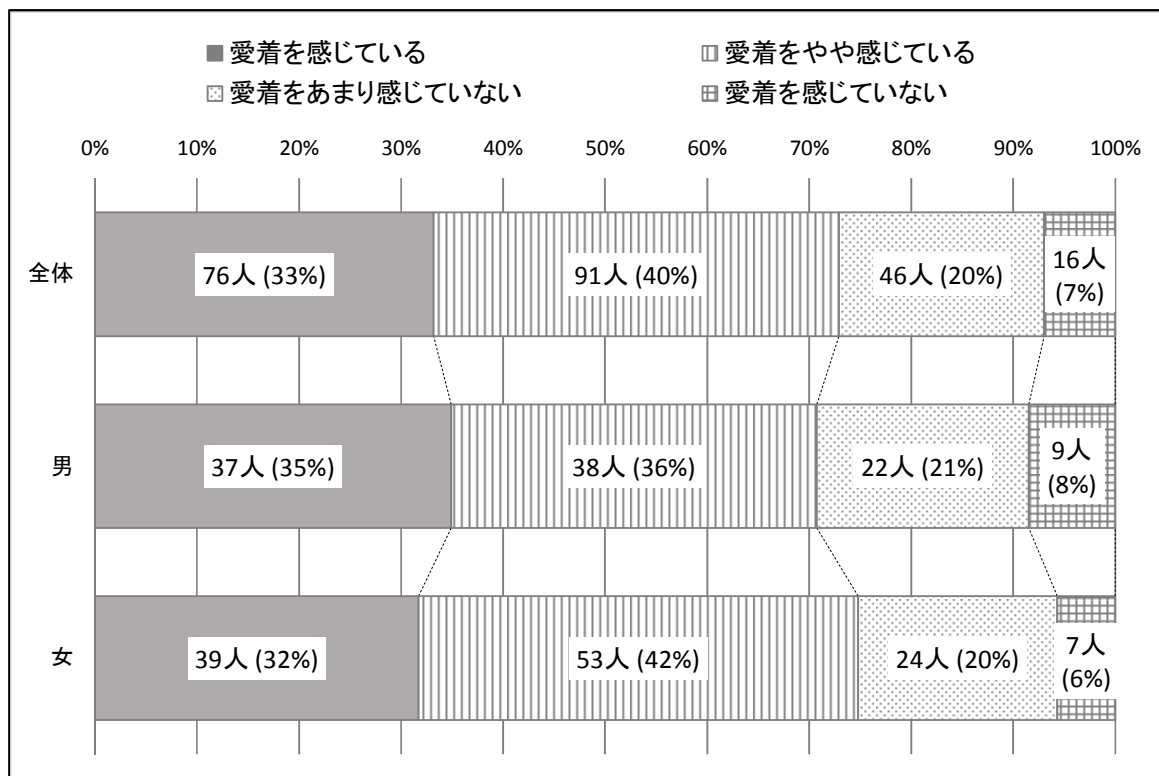
図7 高萩市への愛着



ア 男女別での愛着に関する回答状況

・男女別での本市への愛着については、女性の方が男性に比べて、愛着を感じている割合がやや高い。

図8 高萩市への愛着（男女別）

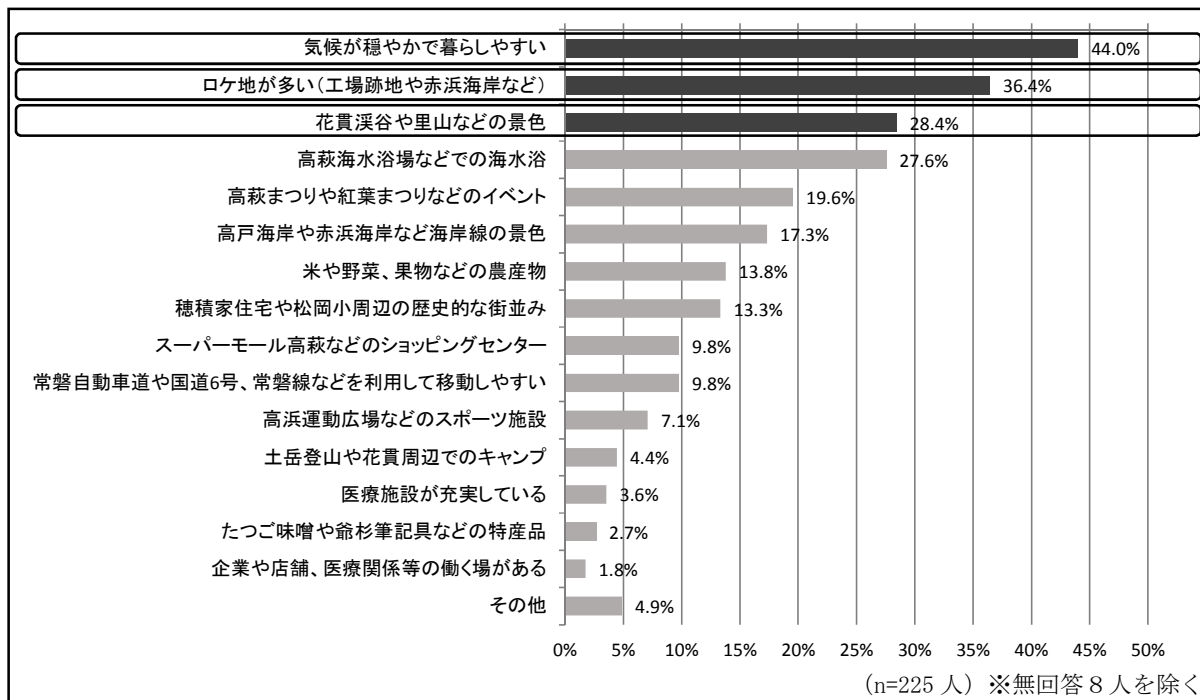


(n=229人) ※問8の回答者230人から問1の性別無回答1人を除く

問9. あなたが思う、高萩市の良いところは何ですか。(該当する項目を3つまで回答)

- ・高萩市の良いところは「気候が穏やかで暮らしやすい」と回答された方の割合が約44%と最も高く、次いで「ロケ地が多い(工場跡地や赤浜海岸など)」の割合が約36%となっている。
- ・「花貫溪谷や里山などの景色」や「高萩海水浴場などでの海水浴」と回答された方の割合も同程度に高くなっており、自然環境やレジャーも魅力と感じられていることがうかがえる。

図9 高萩市の良いところ

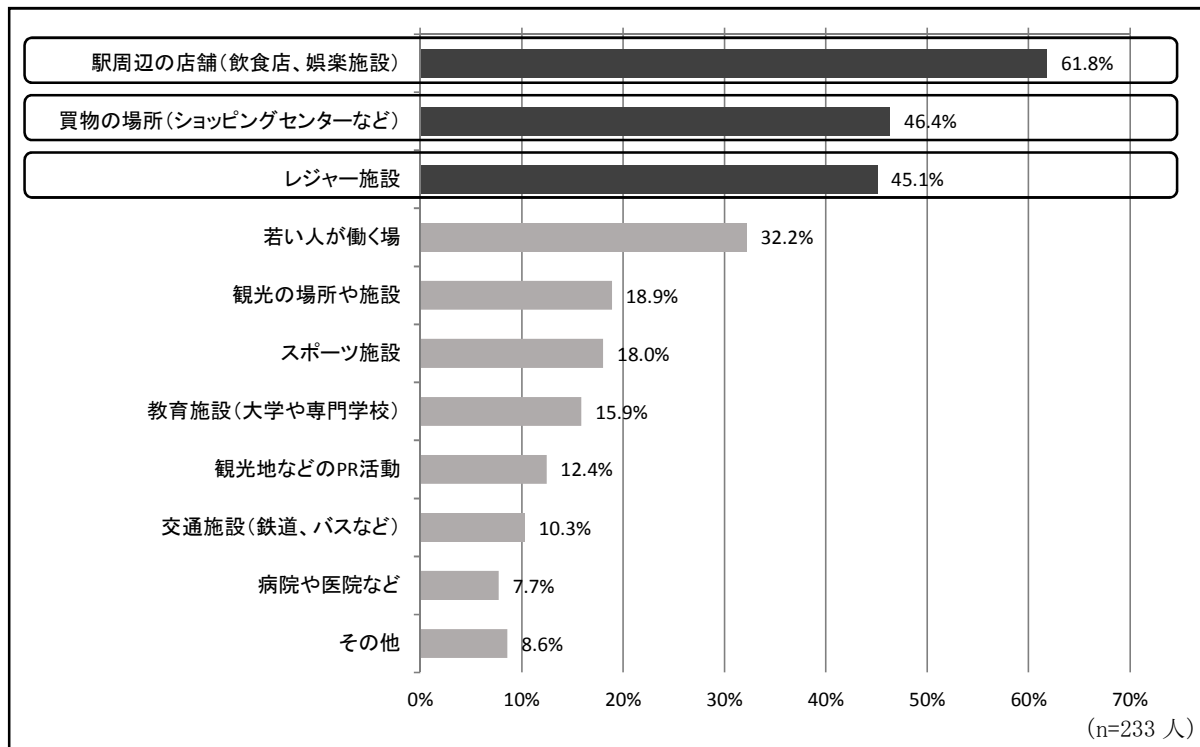




問 10. 高萩市に足りないものは何ですか。(該当する項目を3つまで回答)

・回答割合でみると、「駅周辺の店舗（飲食店、娯楽施設）」が約 62%と最も高く、次いで「買物の場所（ショッピングセンターなど）」が約 46%、「レジャー施設」が約 45%となっていることから、商業・娯楽関連が不足していると感じている方が多いことがうかがえる。

図 10 高萩市に足りないもの

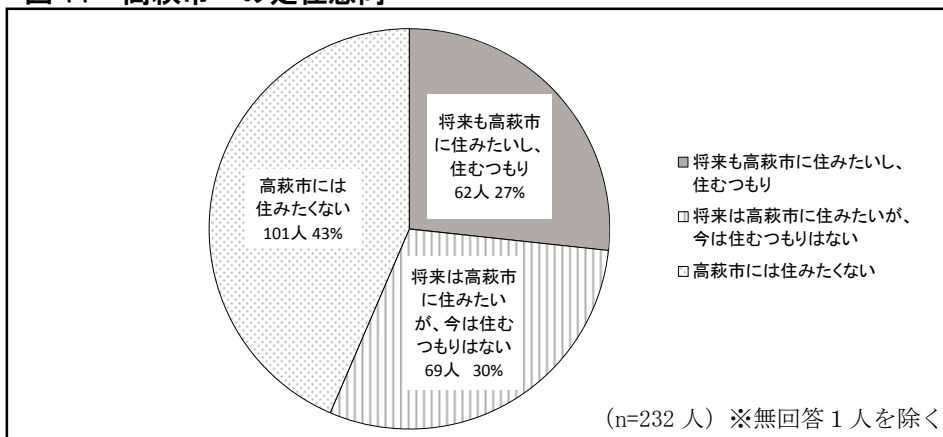


(3) あなたが将来住みたいところについて(定住意向)

問 11. あなたは将来、高萩市に住みたい(定住したい)と考えていますか。

- ・定住に関する回答の割合をみると、「将来も高萩市に住みたいし、住むつもり」が約 27%、「住みたいが、今は住むつもりはない」が約 30%で合わせて約 57%、一方で「高萩市には住みたくない」という回答の割合は 43%となっている。

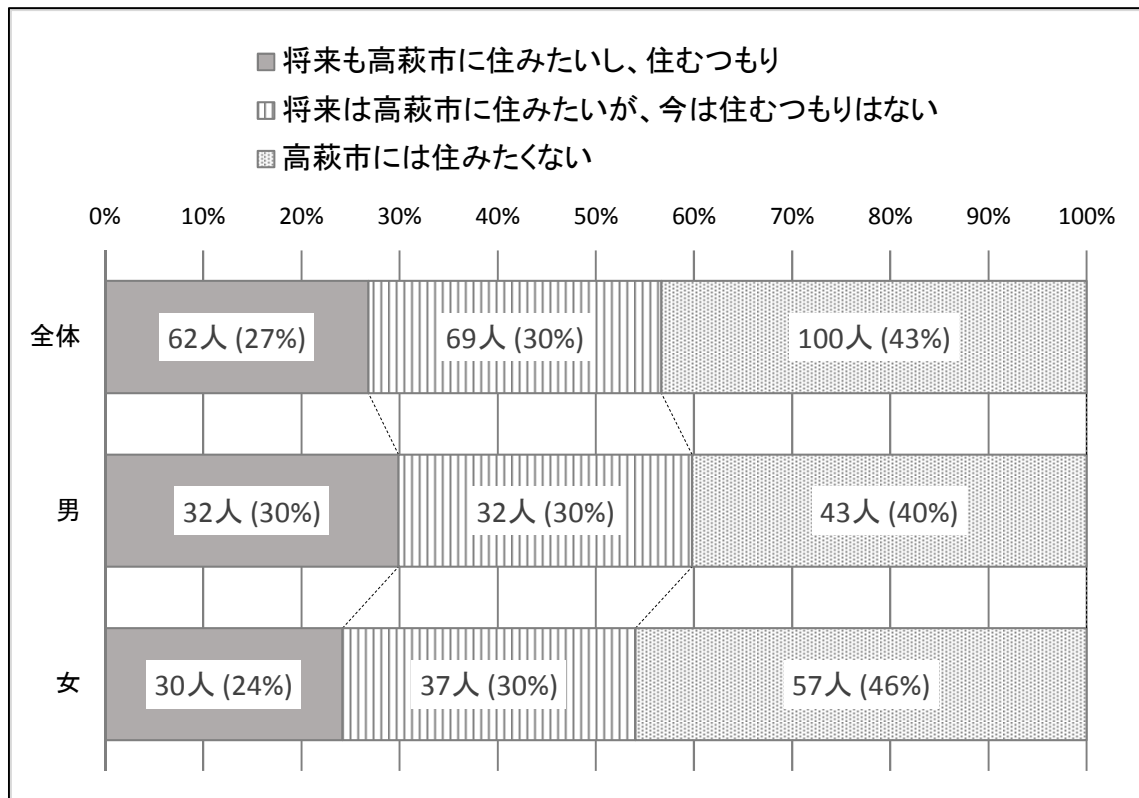
図 11 高萩市への定住意向



ア 男女別での定住意向に関する回答状況

- ・男女別での本市への定住意向の状況は、男性に比べて女性の方が高萩市には住みたくないと回答された割合が高くなっている。

図 12 高萩市への定住意向(男女別)



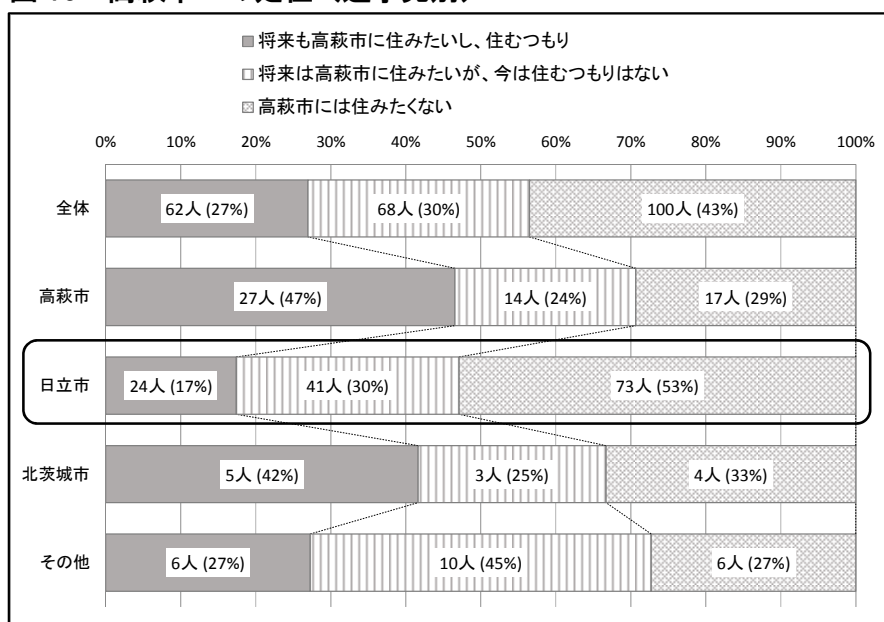
(n=231 人) ※問 11 の回答者 232 人から問 1 の性別無回答 1 人を除く



イ 通学先別での定住に関する回答状況

- ・通学先別での本市への定住意向の状況は、日立市に通学されている方の約半数が「高萩市に住みたくない」と回答しており、大きな都市の学校に通う方が本市への定住意向が低いことがうかがえる。
- ・近隣市以外のその他を回答した学生は、「将来は本市に住みたいが、今は住むつもりはない」の割合が高い。

図 13 高萩市への定住（通学先別）

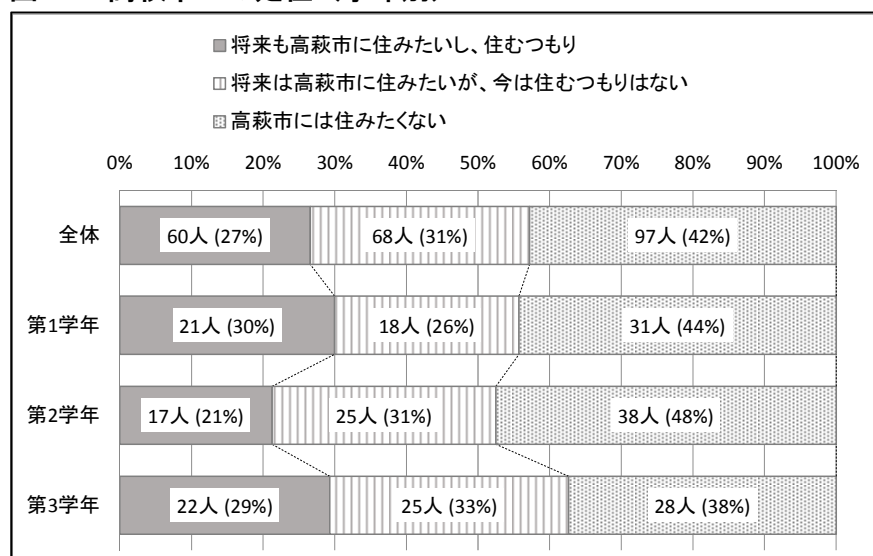


(n=230 人) ※問 11 の回答者 232 人から問 4 の無職回答者 2 人を除く

ウ 学年別での定住に関する回答状況

- ・学年別での本市への定住意向の状況は、「高萩市に住みたくない」の回答について、第 2 学年が最も高く回答割合の半数程度となっているが、全学年ともに概ね同傾向と判断できる。

図 14 高萩市への定住（学年別）

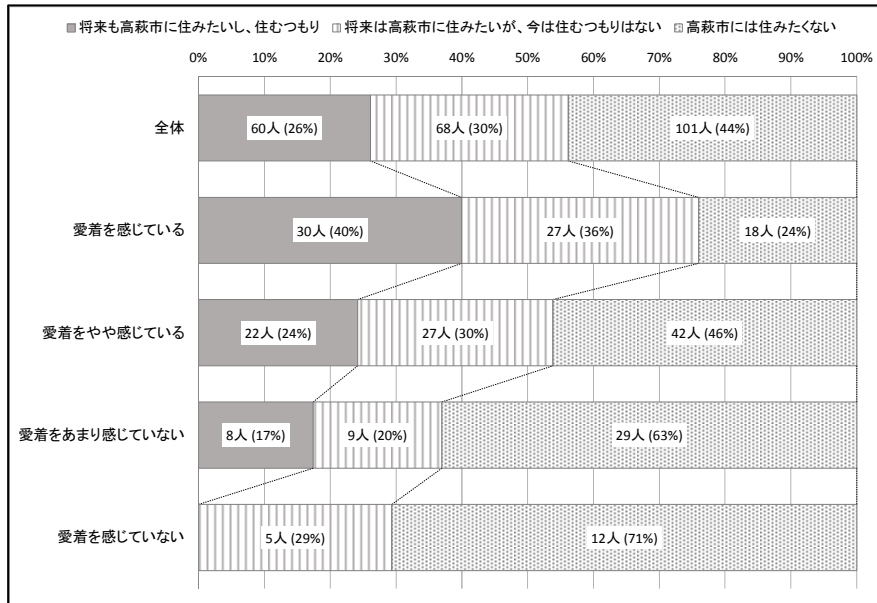


(n=225 人) ※問 11 の回答者 232 人から問 4 の無職回答者 2 人と問 5 の無回答者 5 人を除く

エ 愛着に関する回答別での定住に関する回答状況

- ・愛着に関する回答別での本市への定住意向の状況は、愛着を感じている方ほど本市への定住意向が高く、愛着を感じていない傾向に従い、定住意向が薄れていることがうかがえる。若年層に対して愛着が湧くような施策を実施することにより定住意向が高まると想定される。

図 15 高萩市への定住（愛着に関する回答別）

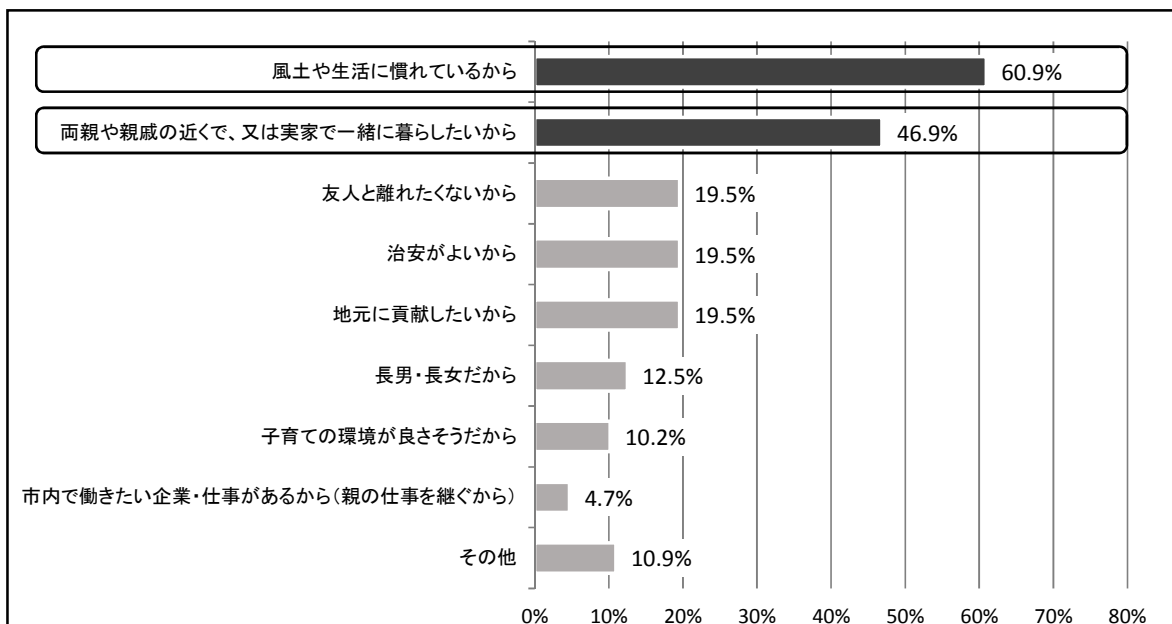


(n=229人) ※問 11 の回答者 232 人のうち問 8 の無回答 3 人を除く

問 12. 問 11 で「高萩市に住みたい」と回答した理由は何ですか。（該当する項目を3つまで回答）

- ・高萩市に住みたい理由の回答割合は「風土や生活に慣れているから」が約 61%と最も高く、次いで「両親や親戚の近くで、又は実家で一緒に暮らしたいから」が約 47%となっている。

図 16 高萩市に住みたいと回答した理由



(n=128人) ※問 11 で「高萩市に住みたい」と回答した 131 人から無回答 3 人を除く

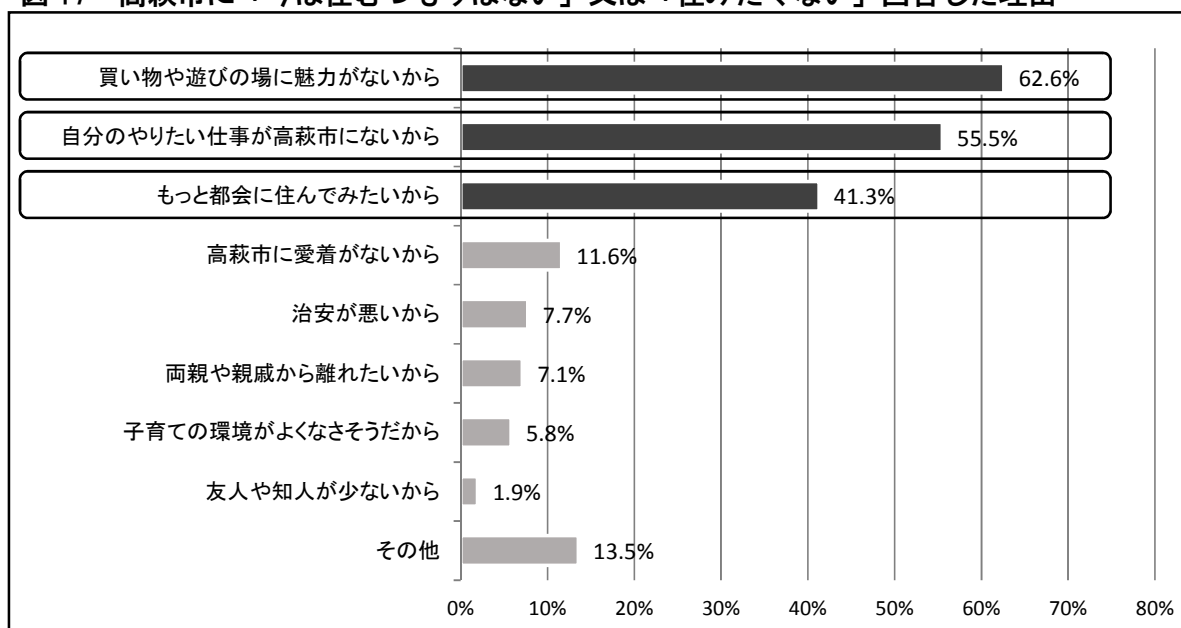


問 13. 問 11 で「今は住むつもりはない」又は「住みたくない」と回答した理由は何ですか。

(該当する項目を3つまで回答)

- ・高萩市に住みたくない理由の回答割合は「買い物や遊びの場に魅力がないから」が約63%と最も高く、次いで「自分のやりたい仕事が高萩市にないから」が約56%、「もっと都会に住んでみたいから」が約41%となっている。

図 17 高萩市に「今は住むつもりはない」又は「住みたくない」回答した理由



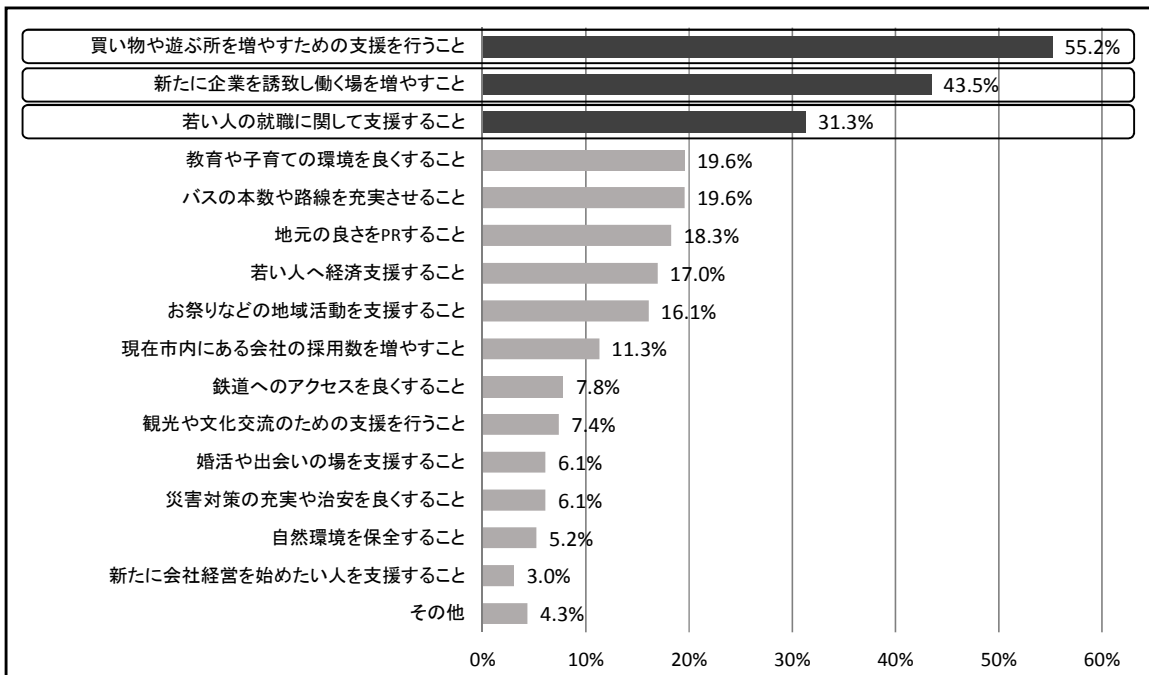
(n=155人) ※問 11 で本市に「今は住むつもりはない」又は「住みたくない」と回答した170人から無回答15人を除く

問 14. あなたは、高萩市に住む人を増やすために必要な支援策は何だと思いますか。

(該当する項目を3つまで回答)

- ・高萩市に住む人を増やすために必要な支援策に関する回答割合は「買い物や遊ぶ所を増やすための支援」が約 55%と最も高く、次いで「新たに企業を誘致し働く場を増やす」が約 44%となっている。
- また「若い人の就職に関して支援する」の回答割合が約 31%と比較的高くなっている。

図 18 高萩市へ住むために必要な支援策

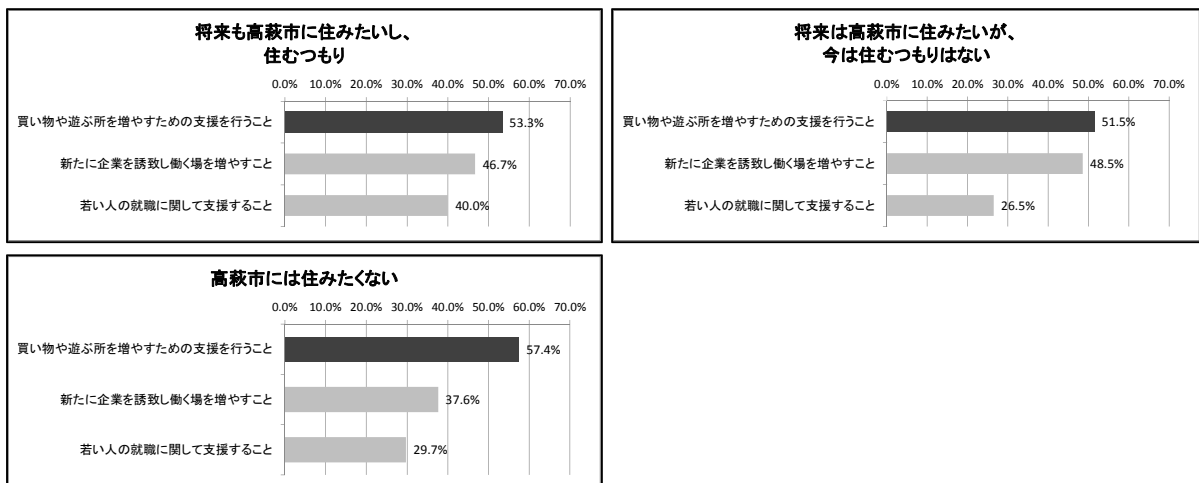


(n=230人) ※無回答3人を除く

ア 高萩市へ住むために必要な支援策（定住意向別）

- ・定住意向別でも上位3つの回答は全体の結果と変わらない。
- ・本市に住むつもりと回答とされた方が望まれている支援策は、他の定住意向と比較して、「若い人への就職に関する支援」の回答割合が高い事から、就職支援に関する施策が若い世代の定住促進につながるものと想定される。
- ・本市に住みたくないと回答した人は、他の定住意向と比較して買い物や遊ぶ所を増やす支援への回答割合が高いことから、商業振興関連の施策が転出抑制につながるものと想定される。

図 19 高萩市へ住むために必要な支援策（定住意向別）



結婚・出産・子育てに関するアンケート調査【結果】

1 調査の概要

- 1) 目的：結婚・出産・子育てに関する市民の意識調査を行い、人口の将来展望及び若い世代の結婚・出産・子育ての希望を実現するための施策の検討に活用する。
- 2) 対象者：高萩市内の19歳～45歳までの方（1,000人）
- 3) 抽出方法：住民基本台帳から無作為抽出（年代別均等割合抽出）
- 4) 調査方法：郵送による配布、回収
- 5) 調査時期：平成27年8月
- 6) 回収率：約28%（276/1,000）
- 7) 集計結果の表記方法
 - ①：nは、質問に対する無回答を除く集計対象総数で割合算出の基準とする。
※ただし属性情報については、無回答も集計対象総数に含む。
 - ②：一人の回答者が2つ以上の回答をすることができる設問は、各選択肢の割合の合計は100.0%を超えている。（回答件数÷有効回答者数）
 - ③：集計割合算出の際に、実際には総割合が100%であるが、端数を四捨五入した結果、個別割合の積上げが100%にならない場合については、割合の比重が高いところで調整している。

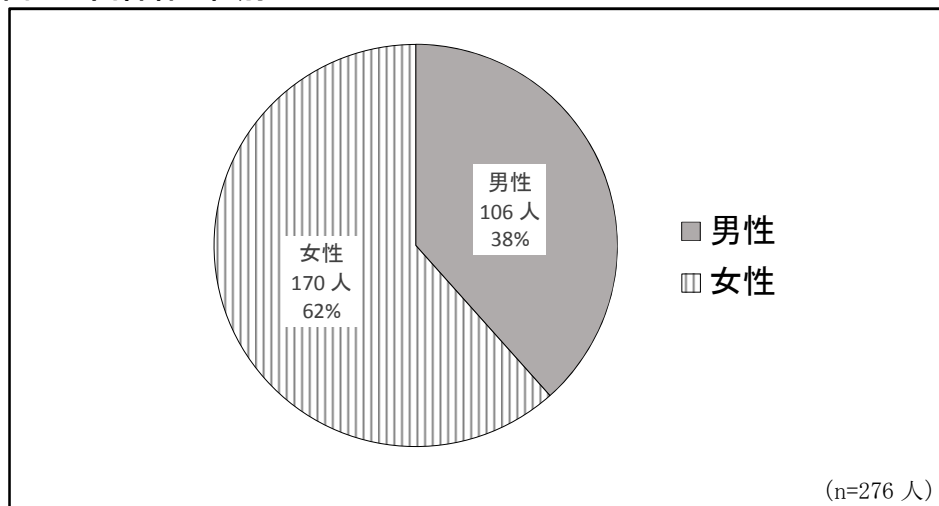
2 調査結果

（1）属性情報について

問1. 性別をお答えください。

- ・回答者の性別割合は、男性が約38%、女性が約62%と女性が過半数占めている。

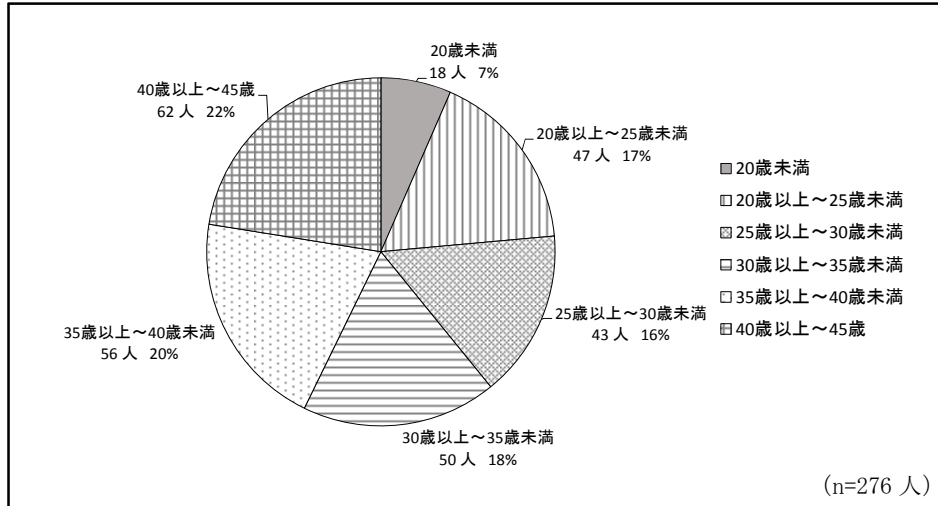
図1 回答者の性別



問2. 年齢をお答えください。

- ・年齢別の回答者割合は40歳以上～45歳未満が約22%、次いで35歳以上～40歳未満が約20%となっており、35歳以上の回答率が高くなっている。

図2 回答者の年齢



問3. お住まいの地域をお答えください。

- ・地域を3区分して割合を見た場合、高萩地区が約68%、松岡地区が約30%、高岡地区が約1%となっており大部分が高萩地区の居住者からの回答となっている。
(現在の3地区の人口構成割合とほぼ同じとなっている。)

図3 市内地区区分図



表1 地域別人口

地区区分	回答者 (人)	構成比 (%)
高萩地区	188	68.1
松岡地区	84	30.4
高岡地区	3	1.1
無回答	1	0.4
合計	276	100.0

**問4. ご職業をお答えください。**

・職業割合は、会社員・役員が約 44%と最も高く、次いでパート・アルバイト・派遣が約 18%、専業主婦・専業主夫が約 16%と同程度の割合となっている。

表2 回答者の職業

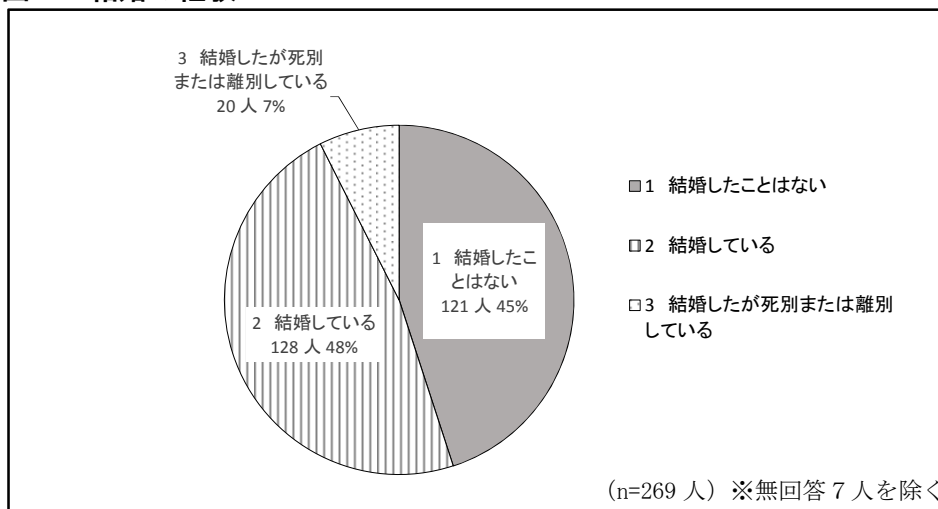
職業分類	回答者 (人)	構成比 (%)
会社員・役員	122	44.1
公務員・団体職員	14	5.1
自営業	7	2.5
農業	1	0.4
パート・アルバイト・派遣	49	17.8
学生	28	10.1
専業主婦・専業主夫	43	15.6
無職	3	1.1
その他	8	2.9
無回答	1	0.4
合計	276	100.0

(2) 結婚について

問5. あなたはこれまでに結婚（届け出をしたもの）をしたことがありますか。

- ・結婚経験の割合は、「結婚したことはない」が約 45%、「結婚している」が約 48%と若干「結婚している」の回答者が多いものの、ほぼ同程度の割合となっている。
- ・また、「結婚したことはない」・「結婚したが死別または離別している」の割合を合計すると約 52%となることから、独身者が半数を占めている。

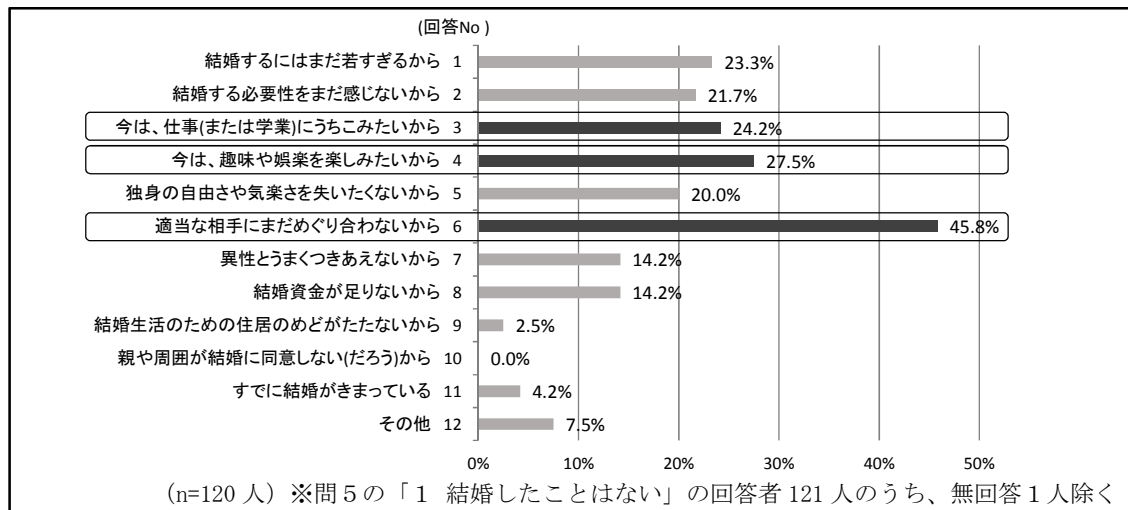
図4 結婚の経験



問6. 問5で「1」を選択した方のみお答えください。あなたが現在独身である理由は、次の中から選ぶとすればどれですか。(該当する項目を3つまで回答)

- ・独身の理由として「適当な相手にまだめぐり合わないから」が約46%と、最も高い割合となっている。
- ・上記以外に「今は、仕事(または学業)にうちこみたいから」、「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」の回答の割合が高くなっている。

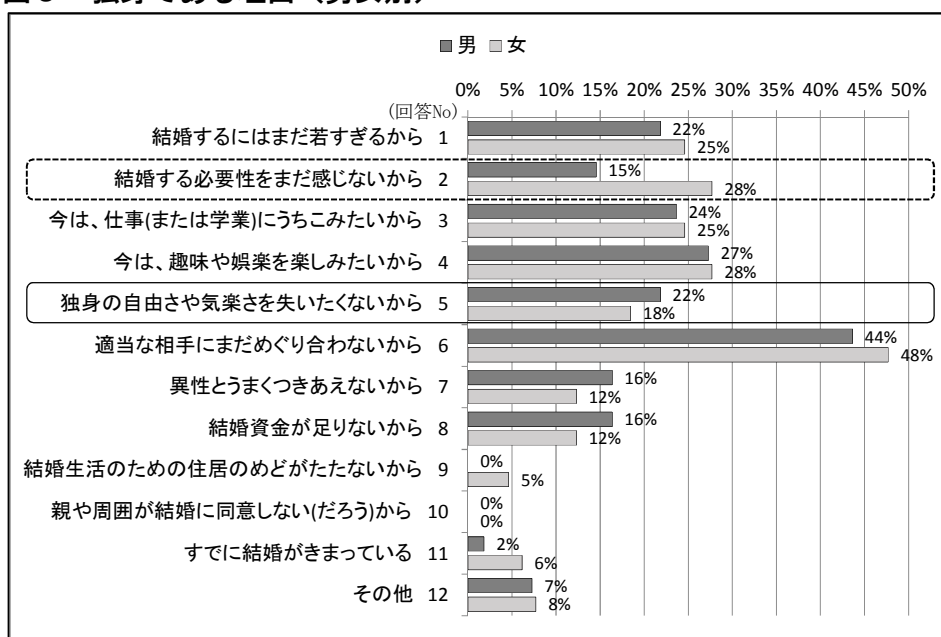
図5 独身である理由



ア 男女別での独身である理由に関する回答状況

- ・独身である理由を男女別にみると、男性女性ともに全体の傾向同様に「適当な相手にまだめぐり合わないから」が最も高い割合となっている。
- ・回答割合が20%を超えた中で、女性からの回答では「結婚する必要性を感じないから」の回答割合が男性に比べ比較的高い結果となっている。
- ・男性からの回答では、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」の回答が女性に比べ若干高い結果となっている。

図6 独身である理由(男女別)



男性：(n=55人)

女性：(n=65人) ※66人のうち無回答1人を除く

イ 年齢別での独身である理由に関する回答状況

- ・独身である理由を年齢別にみると、20歳未満では「結婚するにはまだ早すぎるから」の割合が比較的高くなっている。
- ・20歳以上～25歳未満では、全体傾向同様に「適当な相手にまだめぐりあわないから」の割合が高いものの、「結婚するにはまだ若すぎるから」「今は趣味や娯楽を楽しみたいから」の割合も比較的高くなっている。
- ・25歳以上～30歳未満では、「今は仕事に打ち込みたいから」「今は趣味や娯楽を楽しみたいから」「適当な相手にまだめぐりあわないから」「結婚資金が足りないから」の割合がほぼ同程度で分散している。
- ・30歳以上の状況では全体結果と同様に「適当な相手にまだめぐり合わないから」が最も高くなっている。

表3 独身である理由（年齢別）

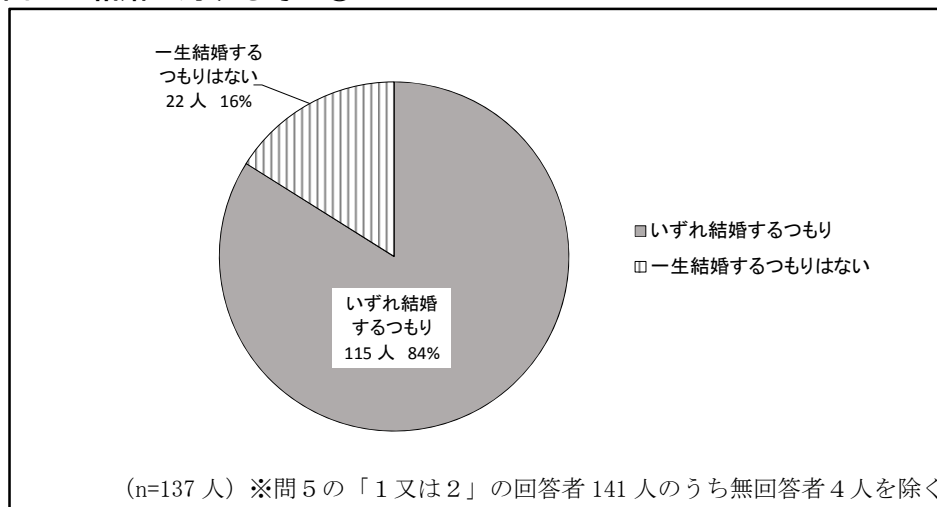
問6 独身の理由	20歳未満		20歳以上～25歳未満		25歳以上～30歳未満		30歳以上～35歳未満		35歳以上～40歳未満		40歳以上～45歳未満	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 結婚するにはまだ若すぎるから	13	72%	15	35%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
2 結婚する必要性をまだ感じないから	5	28%	11	26%	4	17%	3	16%	3	43%	0	0%
3 今は、仕事(または学業)にうちこみたいから	8	44%	11	26%	7	29%	1	5%	1	14%	1	11%
4 今は、趣味や娯楽を楽しみたいから	6	33%	12	28%	8	33%	4	21%	0	0%	3	33%
5 独身の自由さや気楽さを失いたくないから	4	22%	7	16%	3	13%	5	26%	1	14%	4	44%
6 適当な相手にまだめぐり合わないから	2	11%	21	49%	8	33%	12	63%	5	71%	7	78%
7 異性とうまくつきあえないから	3	17%	3	7%	3	13%	5	26%	1	14%	2	22%
8 結婚資金が足りないから	0	0%	5	12%	7	29%	4	21%	0	0%	1	11%
9 結婚生活のための住居のめどがたないから	0	0%	1	2%	2	8%	0	0%	0	0%	0	0%
10 親や周囲が結婚に同意しない(だろう)から	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
11 すでに結婚がきまっている	0	0%	0	0%	4	17%	1	5%	0	0%	0	0%
12 その他	0	0%	2	5%	2	8%	4	21%	1	14%	0	0%
件数合計	41		88		48		39		12		18	
算定母数	n= 18人		n= 43人		n= 24人		n= 19人		n= 7人		n= 9人	

(n=120人) ※問5の「1 結婚したことはない」の回答者121人のうち、無回答1人除く
割合の高い上位3つの回答について着色(凡例：■1位 ■2位 ■3位)

問7. 自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。

- ・「いずれ結婚するつもり」の割合が約84%と大部分を占めることから、多くの方が今後結婚する意向があることがうかがえる。

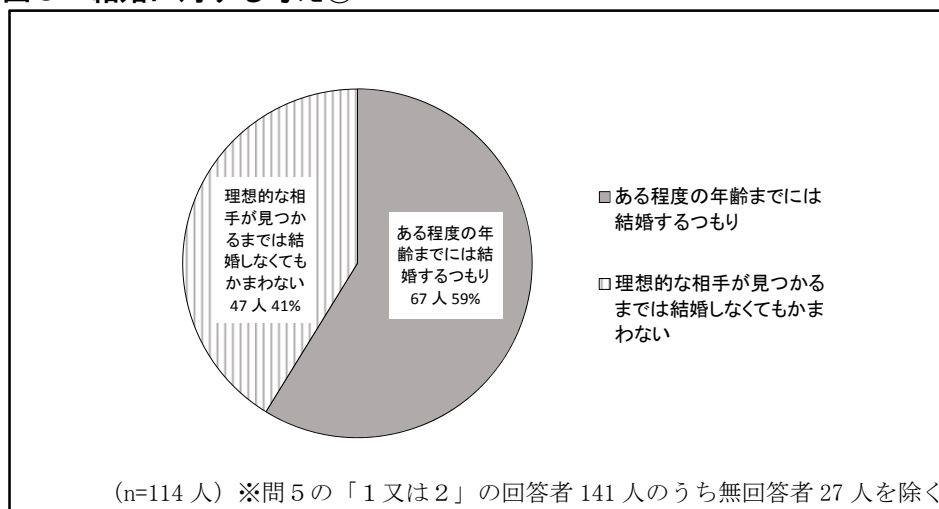
図7 結婚に対する考え①



問8. 同じく自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。

・「ある程度の年齢までには結婚するつもり」の割合が約 59%と過半数を占めている一方で、「理想の相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」と考えている方の割合が約 41%となっている。

図8 結婚に対する考え②



問9. あなたは何歳位のときに何歳位の相手と結婚したいと思いますか。

ア. 自分が何歳位のときに結婚したいですか。

イ. 相手が何歳位のひとと結婚したいですか。

ア：自分の結婚希望年齢の割合は、20歳以上～30歳未満が約55%と最も高く、次いで30歳以上～40歳未満が約31%となっている。

イ：相手の結婚希望年齢の割合は、20歳以上～30歳未満が約57%と最も高く、次いで30歳以上～40歳未満が約34%となっている。

以上のことから、現在結婚していない方の結婚希望年齢は、自分が結婚したい年齢と相手の年齢はほぼ同じ割合になっており、ほぼ同世代の相手との結婚を希望されていることがうかがえる。

図9 結婚の年齢（自分）

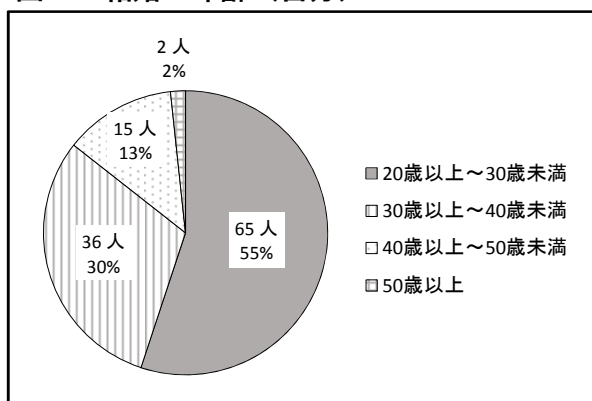
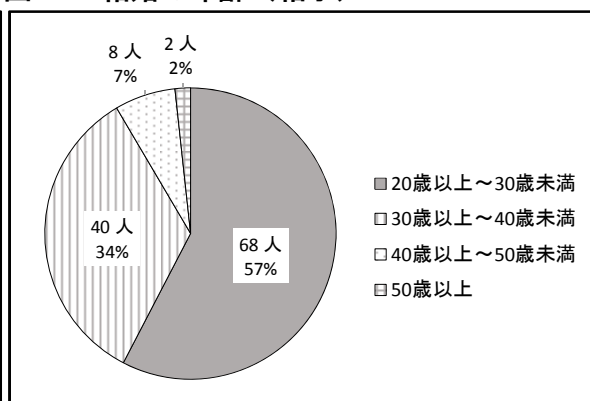


図10 結婚の年齢（相手）

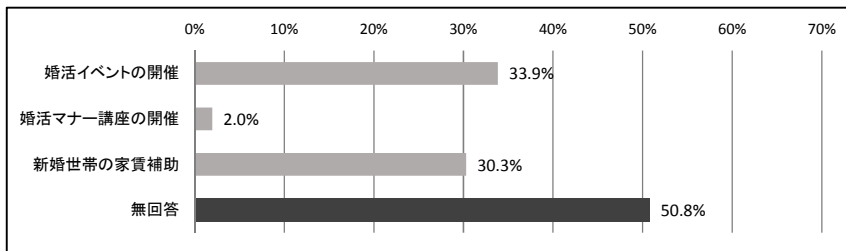


(n=118人) ※問5の「1又は2」の回答者139人のうち無回答者23人を除く

問 10. 結婚をしようと考えている人の希望を叶えるために、高萩市が取り組んでいる支援について、知っているものをお答えください。（該当する項目を全て回答）

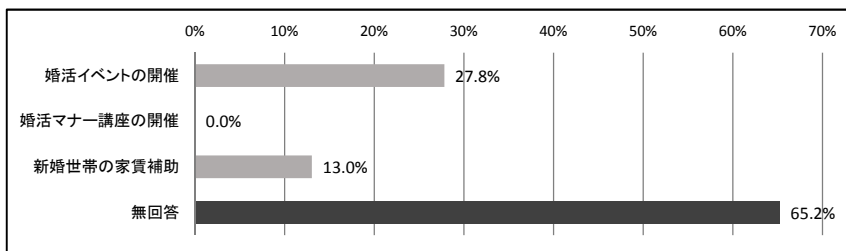
- ・本市の支援策について、知っているものについての回答は「婚活イベントの開催」の割合が約 34%、「新婚世帯の家賃補助」の割合が約 30%となっている。一方、「婚活マナー講座の開催」の割合が約 2%と、ほとんどの方に知られていないことがうかがえる。
- ・無回答が最も多く全体の割合の約 51%を占めている。仮に無回答を全て知られていないものと判断とすると、結婚関連の支援策について周知が不足していることがうかがえる。
- ・図 14 の問 7 で「いずれ結婚するつもり」という回答者での結果をみると、周知はさらに不足していることがうかがえる。結婚を考えている方の支援に関する周知を強化することが婚姻の活性化につながるものと考えられる。

図 11 結婚支援事業の認知度



(n=254 人) ※問 7 の「一生結婚するつもりはない」の回答者 22 人を除く

図 12 結婚支援事業の認知度（「いずれ結婚するつもり」の回答者）

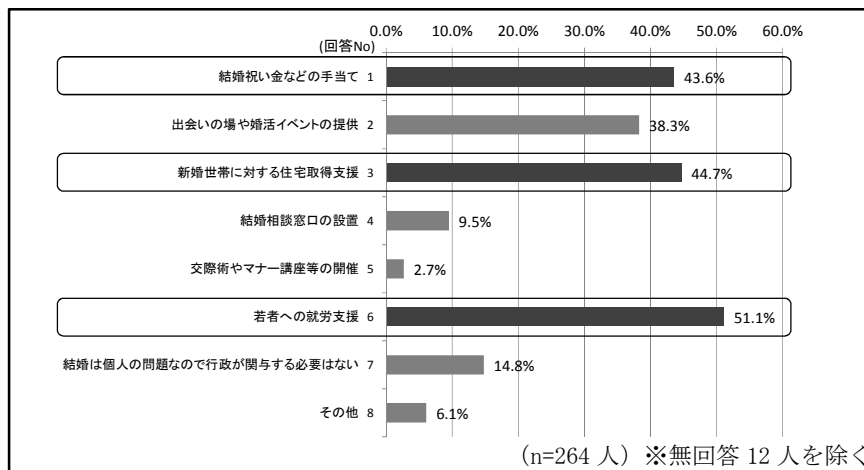


(n=115 人) ※問 7 の「いずれ結婚するつもり」回答者

問 11. これから結婚をしようと考えている人の希望を叶えるために、高萩市が行うべきこととはどのようなことだと思いますか。（該当する項目を 3 つまで回答）

- ・「若者への就労支援」の割合が約 51%と最も高く、次いで「新婚世帯に対する住宅取得支援」の割合が約 45%、「結婚祝い金などの手当」の割合が約 44%となっており、実質的な経済支援が求められている。
- ・また、「出会いの場や婚活イベントの提供」の割合が約 38%と比較的高くなっており、問 10 の結婚に関連する市の支援策に関する回答の結果からも、支援策等の周知が不足していることがうかがえることから、市での取り組みについてのアピール等が必要であると考えられる。

図 13 結婚支援のために行うべき施策

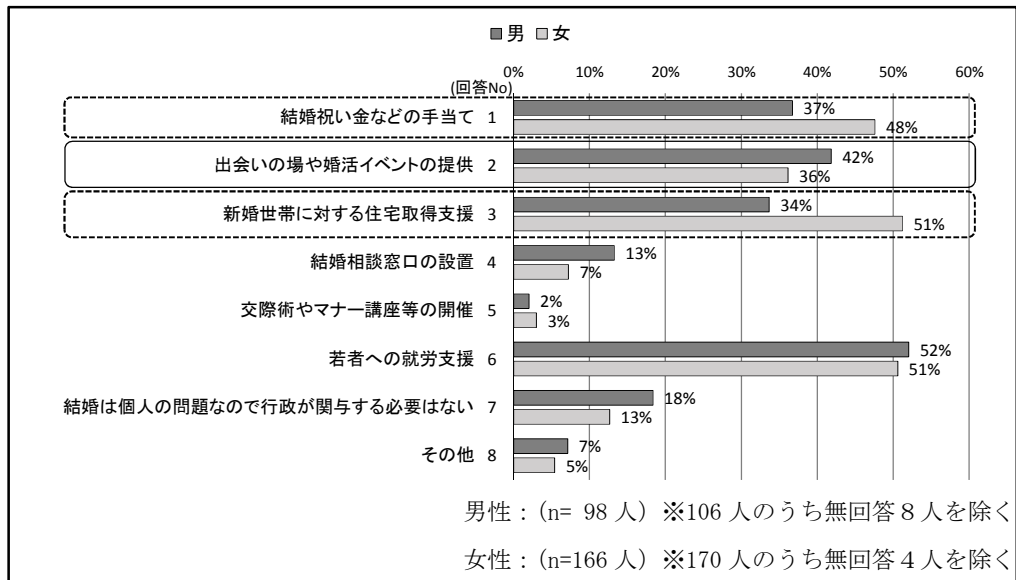


(n=264 人) ※無回答 12 人を除く

ア 男女別での結婚支援策に関する回答状況

- 男女別に結婚支援策に関する回答状況を見ると、女性の回答について「新婚世帯に対する住宅取得支援」及び「結婚祝い金などの手当て」に関する回答の割合が高くなっている。
- 男性の回答では、「出会いの場や婚活イベントの提供」の提供の割合に関する回答が高くなっている。

図 14 結婚支援のために行うべき施策（男女別）



イ 年齢別での結婚支援策に関する回答状況

- 年齢別に結婚支援策に関する回答割合の状況を見ると、20歳未満以外は全体の回答割合と概ね同じような傾向であり「若者への就労支援」と回答された割合が最も高く、他に「新婚世帯に対する住宅取得支援」、「結婚祝い金などの手当て」などの経済支援、「出会いの場や婚活イベントの提供」に関する回答割合が高くなっている。
- 20歳未満では、「結婚祝い金などの手当て」が最も高くなっており、この世代では収入との関連が強く、経済支援の要望につながっているものと考えられる。

表 4 結婚支援のために行うべき施策（年齢別）

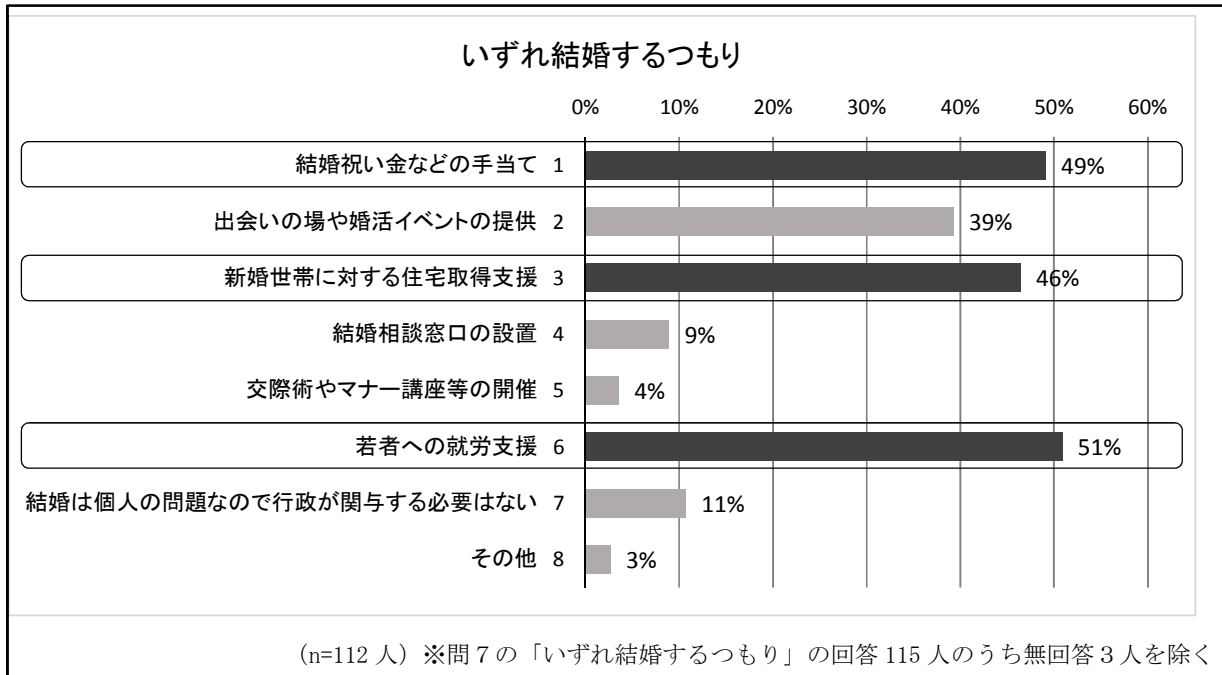
問11 高萩市が行うべきこと	20歳未満		20歳以上～25歳未満		25歳以上～30歳未満		30歳以上～35歳未満		35歳以上～40歳未満		40歳以上～45歳未満	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 結婚祝い金などの手当て	13	72%	19	42%	23	56%	19	42%	20	36%	21	35%
2 出会いの場や婚活イベントの提供	4	22%	14	31%	16	39%	18	40%	24	44%	25	42%
3 新婚世帯に対する住宅取得支援	8	44%	15	33%	21	51%	25	56%	23	42%	26	43%
4 結婚相談窓口の設置	1	6%	5	11%	6	15%	3	7%	6	11%	4	7%
5 交際術やマナー講座等の開催	1	6%	0	0%	2	5%	1	2%	1	2%	1	2%
6 若者への就労支援	6	33%	27	60%	23	56%	20	44%	26	47%	33	55%
7 結婚は個人の問題なので行政が関与する必要はない	1	6%	8	18%	3	7%	9	20%	8	15%	10	17%
8 その他	0	0%	2	4%	2	5%	6	13%	2	4%	4	7%
件数合計	34		90		96		101		110		124	
算定母数	n= 18 人		n= 45 人		n= 41 人		n= 45 人		n= 55 人		n= 60 人	

(n=264 人) ※無回答 12 人を除く
割合の高い上位 3 つの回答について着色(凡例：■ 1位 ■ 2位 ■ 3位)

ウ 問7で「いずれ結婚するつもり」と回答された方の結婚支援策に関する回答状況

- ・問7の「いずれ結婚するつもり」の回答で結婚支援策に関する回答状況をみると、全体の回答割合と概ね同じような傾向になっており、「若者への就労支援」の割合が約51%と最も高く、次いで「結婚祝い金などの手当」の割合が約49%、「新婚世帯に対する住宅取得支援」の割合が約46%、「出会いの場や婚活イベントの提供」が約39%となっている。
- ・特に、問10の高萩市の取組み状況に関する回答結果から、周知が不足していることが考えられるため、出会いの場や婚活イベントの取組の周知の強化が望まれる。

図15 結婚支援のために行うべき施策（「いずれ結婚するつもり」回答）

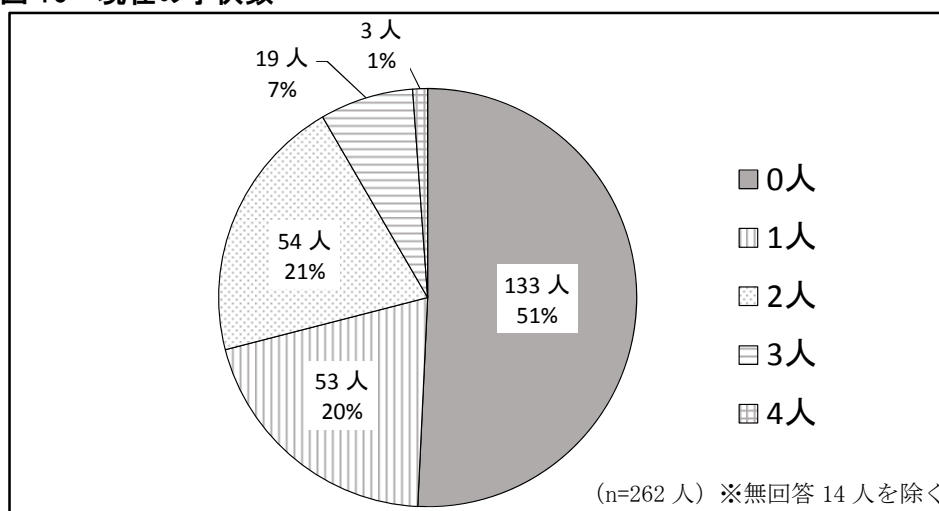


(3) 出産・子育てについて

問 12. あなたには、現在何人のお子さんをお持ちですか。

・現在の子供の数としては、「0人」の割合が約 51%、次いで「2人」が約 21%、「1人」が約 20%と同程度の割合となっている。(未婚の方にも回答いただいているため「0人」の回答割合が多くなっているものと考えられる。)

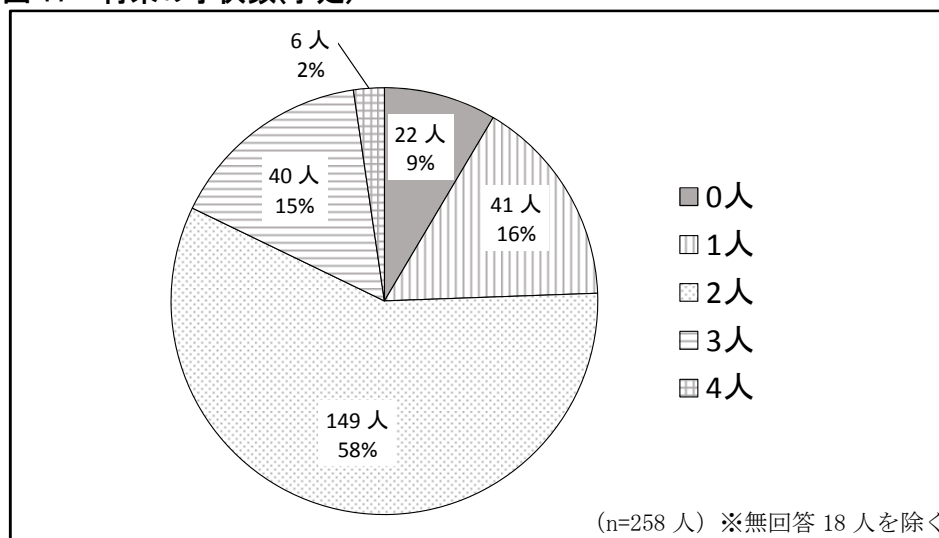
図 16 現在の子供数



問 13. あなたは、今後(将来)お子さんを何人お持ちになる予定ですか。現在お持ちのお子さんの数を含めてお答えください。

・「2人」と回答された方の割合が約 58%と最も高くなっており、次いで「1人」が約 16%、「3人」が約 15%と同程度の割合となっている。

図 17 将来の子供数(予定)



ア 婚姻状況別、問13（予定する子供の数）の状況

- ・今後予定する子供の数について、全体での人数は平均で約1.9人となり既婚者での予定する子供の数は平均で約2.1人となる。
- ・「結婚したことはない」を回答した人の予定する子供の数では2人と回答している方が66人と最も多くなっている。未婚者が結婚できる環境を整え、安心して子供を産める施策の充実により出生率の増加につながる事が考えられる。

表5 集計対象者数

問5	問13	予定する子供の数(回答者)					
		0人	1人	2人	3人	4人	計
1	結婚したことはない	19	13	66	11		109
2	結婚している	2	17	77	24	6	126
3	結婚したが死別または離別している	1	10	4	3		18
	計	22	40	147	38	6	253

※(n=253人) ※問5の無回答7人を除いた269人から予定する子供の数の無回答16人を除く

表6 予定する子供の数の集計

	予定する子供の数						
	0人	1人	2人	3人	4人	計	
1	結婚したことはない	0	13	132	33	0	178
2	結婚している	0	17	154	72	24	267
3	結婚したが死別または離別している	0	10	8	9	0	27
	計	0	40	294	114	24	472

※予定する子供の数は、回答者数に子供の数を乗じて算定した

今後予定する子供の数の平均人数

全体 ……………約1.87人 ※ $472 \div 253$

独身者(回答1+回答3) ……………約1.61人 ※ $(178+27) \div (109+18)$

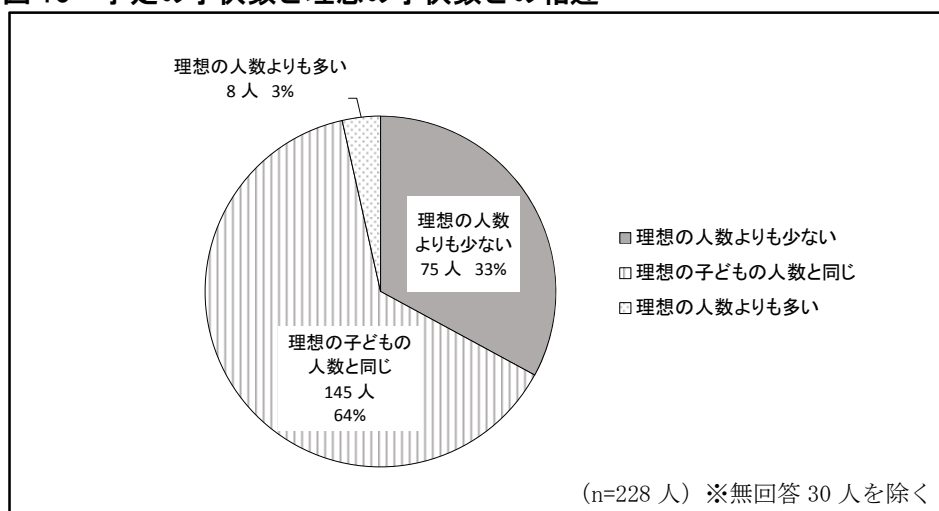
既婚者 ……………約2.12人 ※ $267 \div 126$

※既婚者の今後予定する子供の数は、平均で2.0人を上回っている。(現在お持ちの子供の数を含む)

問 14. 問 13 でお答えになった、今後お子さんをお持ちになる予定の人数は、あなたの理想どおりですか。

- ・「理想の子供の数と同じ」の割合が約 64%と最も高くなっている。
- ・また、「理想の人数よりも少ない」と回答した割合も約 33%となっていることから、理想の子供の数と同じになるための出産・子育て環境の充実のための施策等が必要と考えられる。

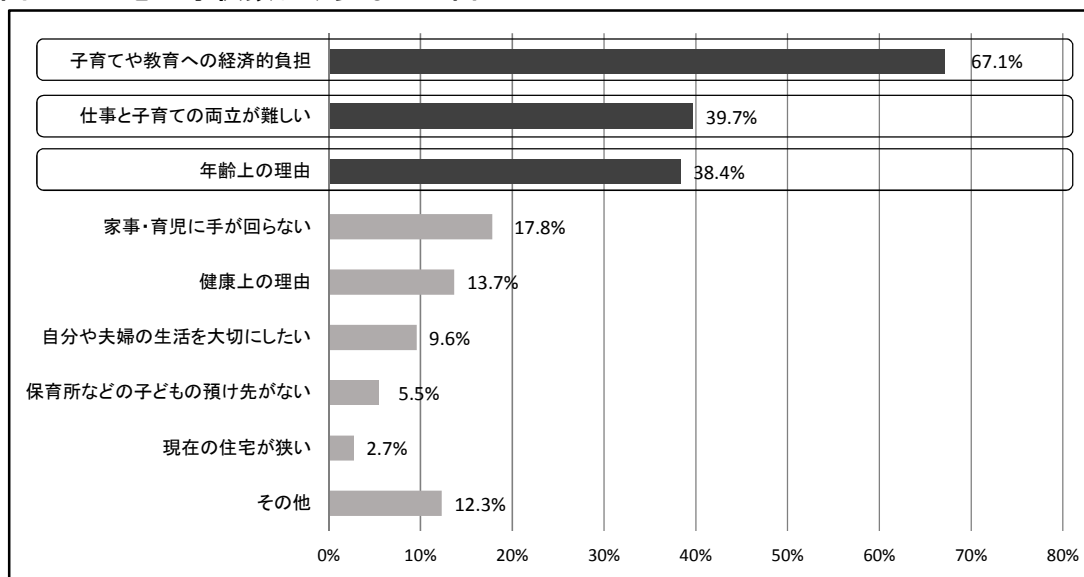
図 18 予定の子供数と理想の子供数との相違



問 15. 問 14 で、あなたが「理想のお子さんの数よりも少ない」と回答した理由として近いものをお答えください。(該当する項目を3つまで回答)

- ・理想の人数よりも少ない理由について、回答者数のうち「子育てや教育への経済的負担」と回答された方の割合が約 67%と最も高くなっている。また、「仕事と子育ての両立が難しい」が約 40%、「年齢上の理由」が約 38%となっており、経済負担の軽減策や子育て環境の整備の充実が考えられる。

図 19 理想の子供数より少ない理由

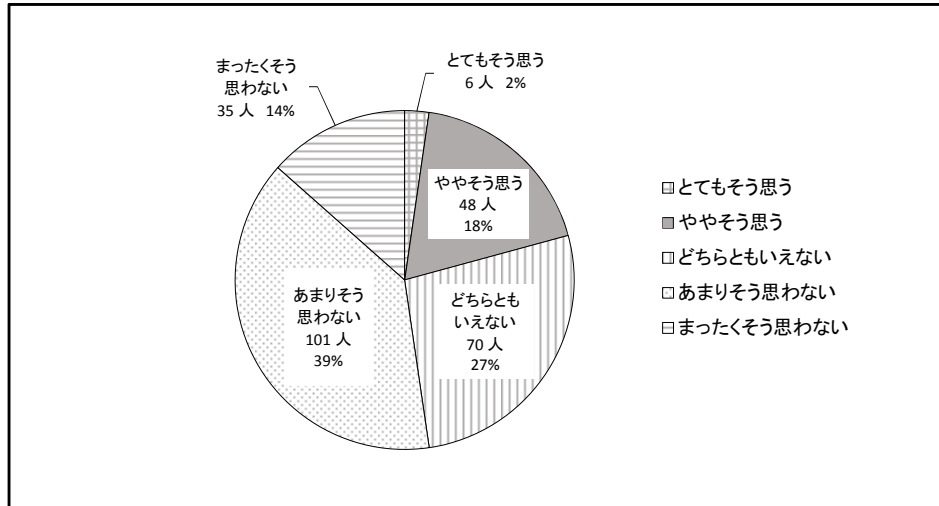


(n=73人) ※問 14 で「理想の数よりも少ない」と回答された 75 人のうち無回答 2 人を除く

問 16. 高萩市は出産や子育てがしやすい環境だと思いますか。

- ・子育てがしやすい環境について、「あまりそうは思わない」「まったくそうは思わない」の割合を合わせると約 53%と過半数を占めている。出生率の改善に向けて、出産・子育て環境の充実が必要であると考えられる。

図 20 出産・子育て環境の評価

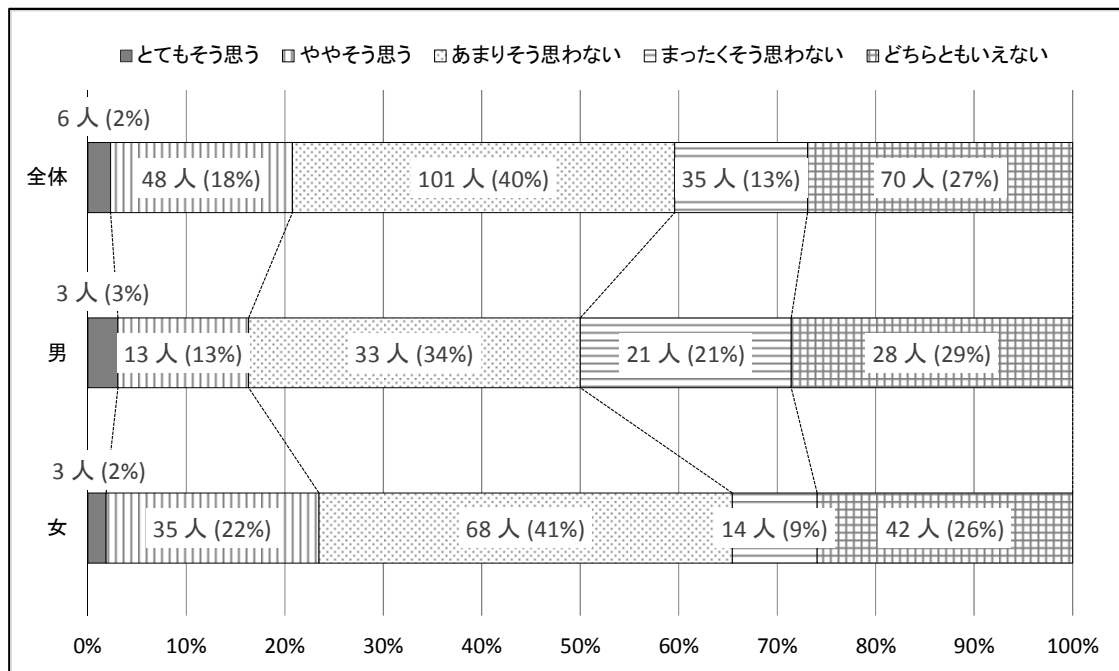


(n=260人) ※無回答 16人を除く

ア 出産・子育て環境の評価（男女別）

- ・男女別に出産・子育て環境の評価をみると「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」を合計した場合に、女性が 50%、男性が 55%となっており、男女ともに半数以上が子育てしやすい環境とっていない結果となっている。
- ・「やや思う」の回答は男性 13%に比べ女性 22%と高くなっている。

図 21 出産・子育て環境の評価（男女別）

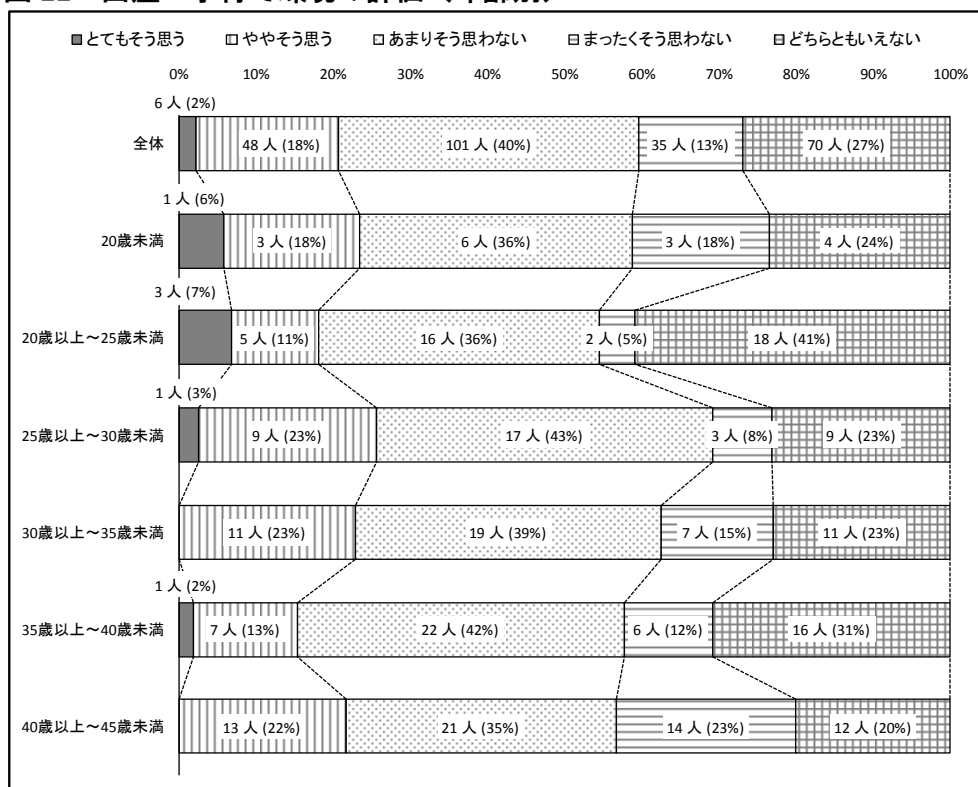


(n=260人) ※無回答 16人を除く

イ 出産・子育て環境の評価（年齢別）

- ・子育て環境について年齢別にみると、多少ばらつきはあるものの、概ね全体での回答割合と同傾向になっている。
- ・この中で20歳未満、20歳～25歳未満に着目すると、「とてもそう思う」という意見が他の世代に比べ多く回答されている。

図 22 出産・子育て環境の評価（年齢別）

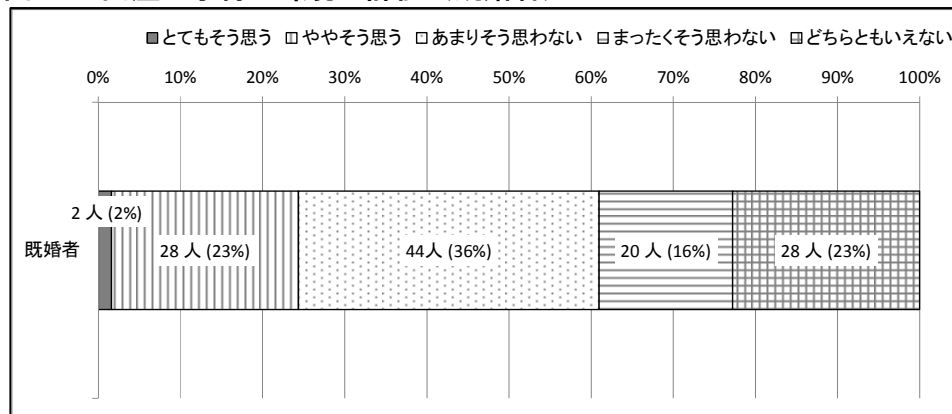


(n=260人) ※無回答16人を除く

ウ 出産・子育て環境の評価（既婚者）

- ・子育て環境について既婚者の回答状況を見ると、全体での回答の傾向とはほぼ同じような状況である。

図 23 出産・子育て環境の評価（既婚者）



※全体割合についてはP.14の問16を参照

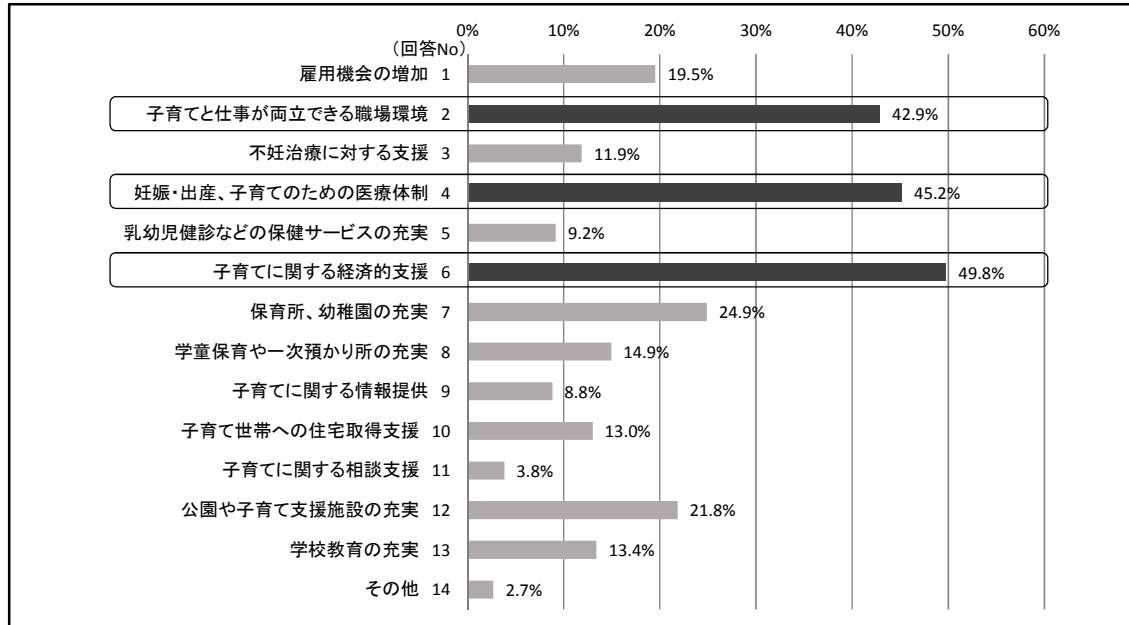
(n=123人) ※問5の「2 結婚している」の回答者128人のうち、無回答5人除く

問 17. 出産や子育てのために、あなたが行政に望む支援策をお答えください。

(該当する項目を3つまで回答)

- ・行政に望む支援策について、回答者のうち「子育てに関する経済的支援」と回答された方の割合が約 50%と最も高く、次いで「妊娠・出産、子育てのための医療体制」が約 45%、「子育てと仕事が両立できる職場環境」が約 43%と同程度で高い状況である。

図 24 行政に望む支援策：出産・子育て

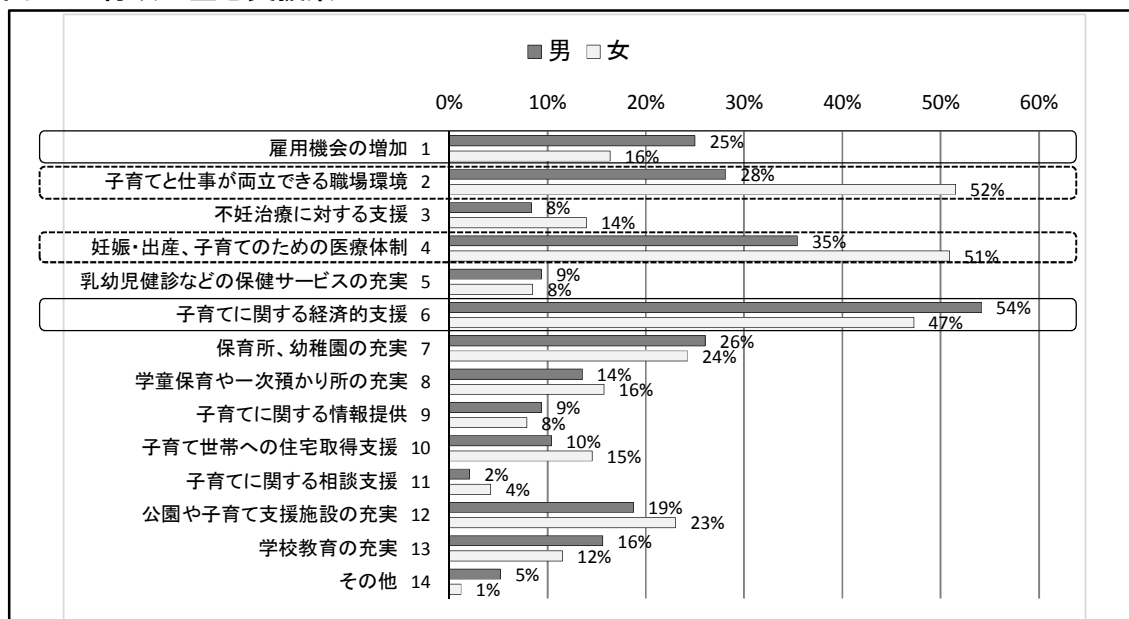


(n=261人) ※無回答 15人を除く

ア 行政に望む支援策（男女別）

- ・行政に望む支援策について男女別にみると、女性では「子育てと仕事が両立できる職場環境」と「妊娠・出産、子育てのための医療体制」に関する回答が男性に比べ高い結果となっている。一方、男性では「子育てに関する経済的支援」や「雇用機会の増加」が女性に比べ高い結果となっている。

図 25 行政に望む支援策



(男性：n=96人 女性 n=165人) ※無回答 15人を除く

イ 年齢別での行政に望む支援策

- ・年齢別に行政に望む支援策をみると、20歳未満を除いて全体的に「子育てに関する経済的支援」が高くなっているが、35歳以上では「妊娠・出産、子育てのための医療体制」に関する意向が最も高くなっている。
- ・「子育てと仕事が両立できる職場環境」についてはどの年代層においても高い傾向になっている。

表7 行政に望む支援策（年齢別）

問17 行政に望む支援策	20歳未満		20歳以上～25歳未満		25歳以上～30歳未満		30歳以上～35歳未満		35歳以上～40歳未満		40歳以上～45歳未満	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 雇用機会の増加	4	24%	7	17%	8	20%	11	24%	9	17%	12	19%
2 子育てと仕事が両立できる職場環境	8	47%	20	48%	19	46%	21	47%	20	37%	24	39%
3 不妊治療に対する支援	1	6%	2	5%	4	10%	7	16%	2	4%	14	23%
4 妊娠・出産、子育てのための医療体制	5	29%	18	43%	16	39%	18	40%	28	52%	33	53%
5 乳幼児検診などの保健サービスの充実	2	12%	3	7%	7	17%	3	7%	7	13%	1	2%
6 子育てに関する経済的支援	6	35%	21	50%	22	54%	23	51%	28	52%	30	48%
7 保育所、幼稚園の充実	6	35%	15	36%	9	22%	11	24%	14	26%	9	15%
8 学童保育や一時預かり所の充実	2	12%	3	7%	6	15%	7	16%	10	19%	11	18%
9 子育てに関する情報提供の充実	2	12%	3	7%	2	5%	5	11%	6	11%	4	6%
10 子育てで世帯への住宅取得支援	1	6%	4	10%	7	17%	12	27%	5	9%	5	8%
11 子育てに関する相談支援	0	0%	0	0%	2	5%	1	2%	3	6%	3	5%
12 公園や子育て支援施設の充実	4	24%	4	10%	10	24%	6	13%	20	37%	12	19%
13 学校教育の充実	3	18%	7	17%	6	15%	2	4%	8	15%	8	13%
14 その他	0	0%	1	2%	2	5%	2	4%	1	2%	1	2%
件数合計	44		108		120		129		161		167	
算定母数	n= 17人		n= 42人		n= 41人		n= 45人		n= 54人		n= 62人	

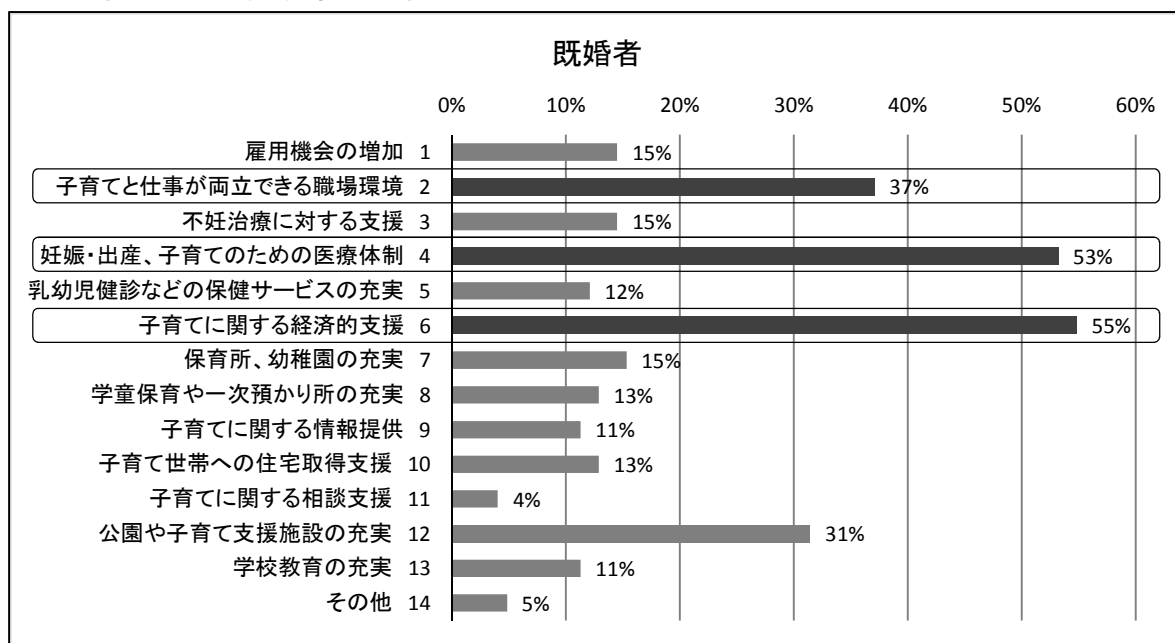
(n=261人) ※無回答15人を除く

割合の高い上位3つの回答について着色(凡例: ■ 1位 ■ 2位 ■ 3位)

ウ 既婚者での行政に望む支援策

- ・既婚者で行政に望む支援策をみると、全体の傾向と同様に「子育てに関する経済的支援」、「妊娠・出産、子育てのための医療体制」、「子育てと仕事が両立できる職場環境」が高い結果となっているが、全体の傾向に比べ「公園や子育て支援施設の充実」に関する意向が高くなっている。

図26 行政に望む支援策（既婚者）



(n=124人) ※問5の「2 結婚している」の回答者128人のうち、無回答4人除く

エ 理想の子どもの数に関する回答別での行政に望む支援策

- ・理想の子どもの数に関する回答別で行政に望む支援策をみると、「理想の子どもの数より少ない」と回答された方の状況では、「子育てと仕事が両立できる職場環境」と「子育てに関する経済的支援」に関する回答が高くなっている。
- ・「理想の子供の数と同じ」と答えた方は、経済的支援や医療体制の整備について、高い回答割合となっている。

表 8 行政に望む支援策（理想の子どもの数に関する回答別）

問17 行政に望む支援策	問14 理想の子どもの数					
	理想の人数より少ない		理想の人数と同じ		理想の人数よりも多い	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 雇用機会の増加	15	21%	27	19%	1	13%
2 子育てと仕事が両立できる職場環境	36	49%	55	39%	3	38%
3 不妊治療に対する支援	16	22%	11	8%	0	0%
4 妊娠・出産、子育てのための医療体制	21	29%	73	51%	6	75%
5 乳幼児検診などの保健サービスの充実	2	3%	20	14%	0	0%
6 子育てに関する経済的支援	35	48%	74	52%	4	50%
7 保育所、幼稚園の充実	13	18%	39	27%	1	13%
8 学童保育や一時預かり所の充実	11	15%	15	11%	1	13%
9 子育てに関する情報提供の充実	10	14%	11	8%	0	0%
10 子育て世帯への住宅取得支援	8	11%	23	16%	1	13%
11 子育てに関する相談支援	6	8%	2	1%	0	0%
12 公園や子育て支援施設の充実	13	18%	35	25%	1	13%
13 学校教育の充実	9	12%	18	13%	2	25%
14 その他	3	4%	4	3%	0	0%
件数合計	198		407		20	
算定母数	n= 73 人		n= 142 人		n= 8 人	

※(n=223 人)問 14 理想の子どもの数回答者 228 人のうち無回答 5 人を除く
割合の高い上位 3 つの回答について着色(凡例：■ 1 位 ■ 2 位 ■ 3 位)

オ 子育てしやすい環境に関する回答別での行政に望む支援策

- ・子育てしやすい環境に関する回答別で行政に望む支援策をみると、「あまりそう思わない」「まったくそう思はない」と回答された方の状況で「妊娠・出産、子育てのための医療体制」「子育てに関する経済的支援」に関する回答が高くなっている。
- ・「ややそう思う」と答えた方の状況では「子育てに関する経済的支援」「子育てと仕事が両立できる職場環境」「妊娠・出産、子育てのための医療体制」が同程度の割合で高くなっている。

表 9 行政に望む支援策（「子育てしやすい環境」に関する回答別）

問17 行政に望む支援策	問16 子育てしやすい環境									
	とてもそう思う		ややそう思う		あまりそう思わない		まったくそう思わない		どちらともいえない	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 雇用機会の増加	0	0%	7	15%	17	17%	9	26%	17	26%
2 子育てと仕事が両立できる職場環境	3	50%	21	44%	39	39%	12	34%	34	52%
3 不妊治療に対する支援	0	0%	9	19%	8	8%	6	17%	6	9%
4 妊娠・出産、子育てのための医療体制	1	17%	19	40%	47	47%	19	54%	29	45%
5 乳幼児検診などの保健サービスの充実	1	17%	6	13%	9	9%	3	9%	5	8%
6 子育てに関する経済的支援	2	33%	22	46%	51	51%	19	54%	32	49%
7 保育所、幼稚園の充実	3	50%	10	21%	21	21%	8	23%	21	32%
8 学童保育や一時預かり所の充実	1	17%	8	17%	20	20%	4	11%	5	8%
9 子育てに関する情報提供の充実	1	17%	4	8%	7	7%	1	3%	8	12%
10 子育て世帯への住宅取得支援	0	0%	9	19%	13	13%	3	9%	9	14%
11 子育てに関する相談支援	0	0%	0	0%	7	7%	0	0%	2	3%
12 公園や子育て支援施設の充実	1	17%	11	23%	27	27%	6	17%	10	15%
13 学校教育の充実	0	0%	5	10%	15	15%	3	9%	10	15%
14 その他	0	0%	1	2%	3	3%	3	9%	0	0%
件数合計	13		132		284		96		188	
算定母数	n= 6 人		n= 48 人		n= 100 人		n= 35 人		n= 65 人	

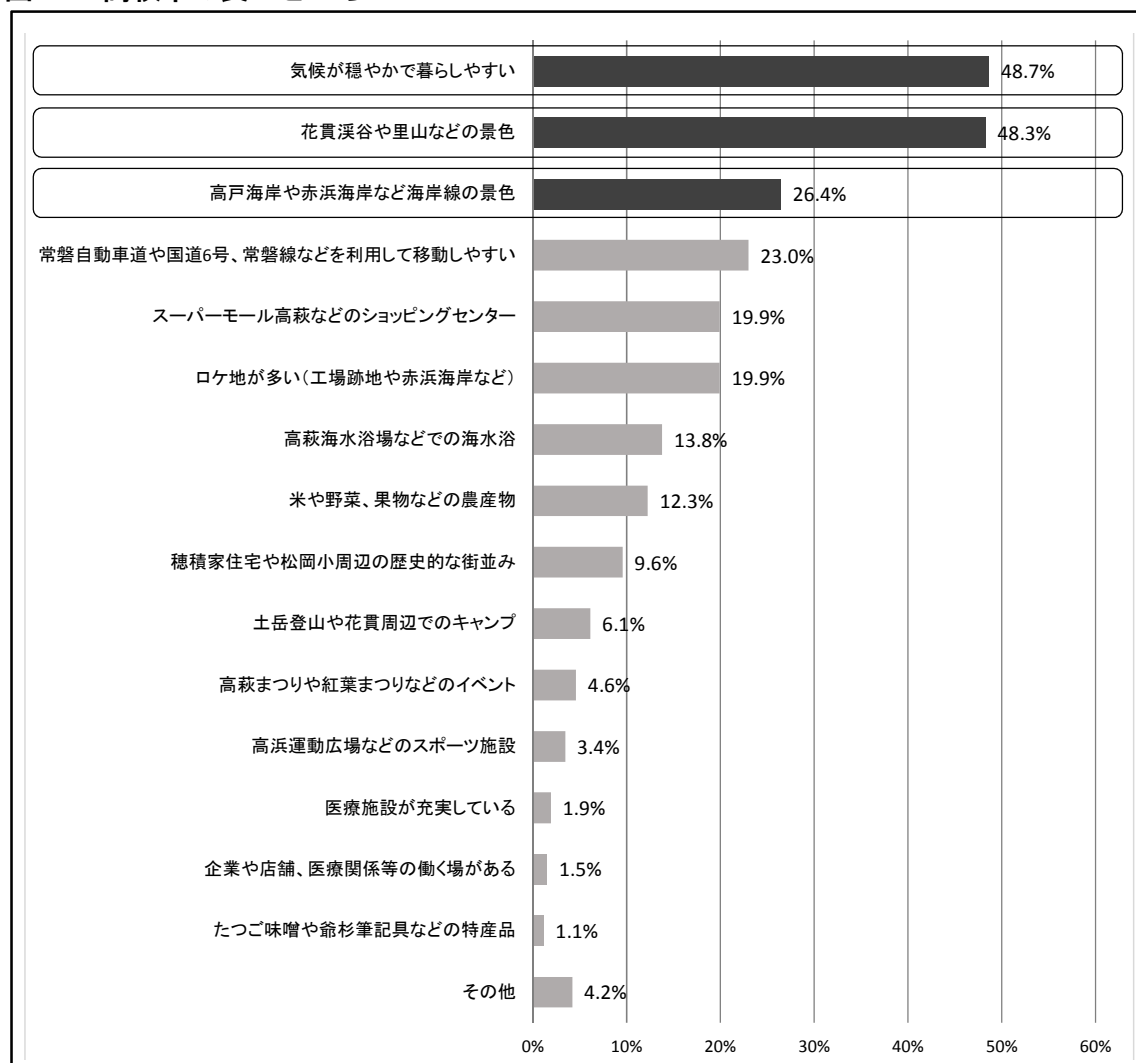
※(n=254 人)：問 16 子育て環境評価の数回答者 260 人のうち無回答 6 人を除く
割合の高い上位 3 つの回答について着色(凡例：■ 1 位 ■ 2 位 ■ 3 位)

(4) あなたの日常生活の状況について

問 18. あなたが思う、高萩市の良いところは何ですか。(該当する項目を3つまで回答)

- ・高萩市の良いところについて、回答者数のうち「気候が穏やかで暮らしやすい」と回答された方の割合が約49%、「花貫渓谷や里山などの景色」と回答された割合が約48%、と同程度で高い割合になっている。
- ・また、「高戸海岸や赤浜海岸など海岸線の景色」や「常磐自動車道や国道6号、常磐線などを利用して移動しやすい」と回答された方の割合も比較的高くなっている。

図 27 高萩市の良いところ

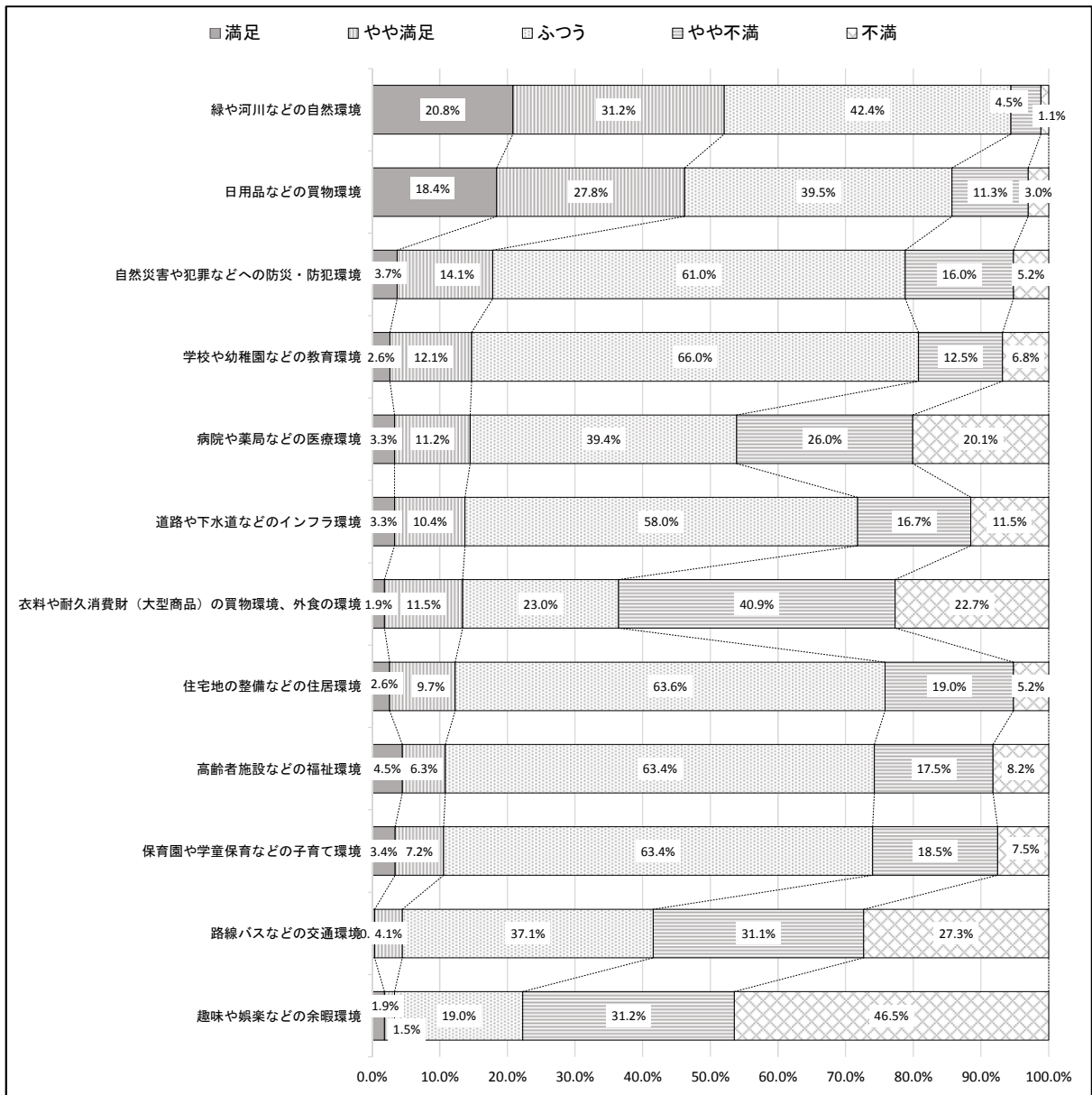


(n=261人) ※無回答15人を除く

問 19. 高萩市内における以下の生活環境についてあなたはどのように感じていますか。以下の項目ごとにお答えください。

- ・最も満足度の高い項目としては、「緑や河川などの自然環境」についての評価で、「満足」と「やや満足」の割合を合計すると約 52%となり、過半数を占めている。次いで日用品などの買物環境についても、満足傾向の評価が高くなっている。
- ・最も満足度の低い項目としては、余暇環境についての評価で、「不満」と「やや不満」の割合を合計すると約 78%となり、大部分を占めている。次いで、交通環境・耐久消費財の買物環境や外食環境・医療環境についても不満の評価が高くなっている。
- ・上記以外の項目については「ふつう」の評価が回答割合の過半数を占めている。

図 28 生活環境の評価について

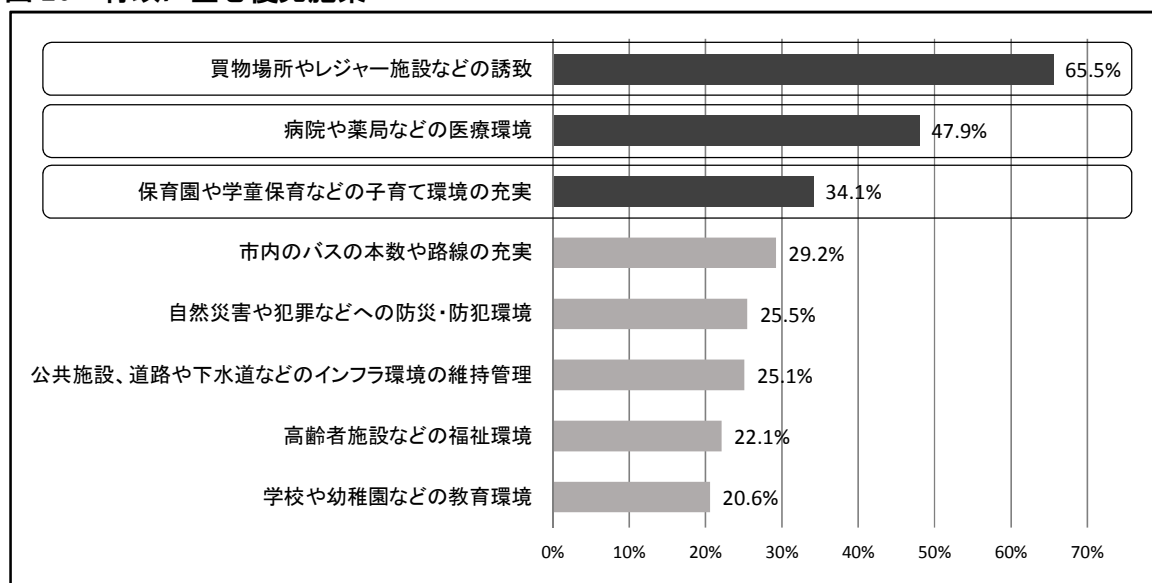


問 20. 今後の生活環境について、特に優先して取り組むべき施策をお答えください。

(該当する項目を3つまで回答)

- ・優先的に取り組むべき施策としては、「買物場所やレジャー施設などの誘致」と回答された方の割合が約 66%と最も高く、次いで「病院や薬局などの医療環境」が約 48%と比較的高い割合になっている。

図 29 行政に望む優先施策



(n=267 人) ※無回答 9 人除く